日本讀本

第五

者次著

T1A3
10
Sh55a

石塚學館藏書印

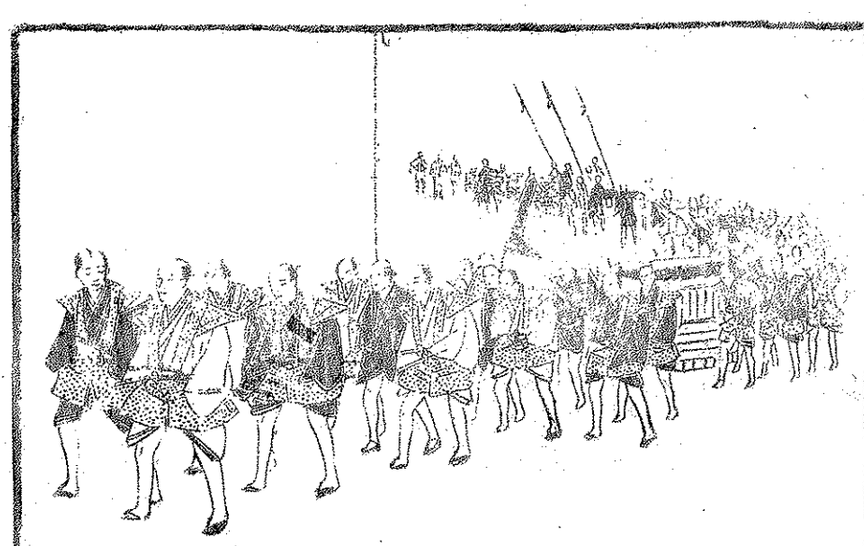
政府

シキ兒童ハ他ノ家ノ犬ヲ打チテ樂ミトシ、道路ニ石ヲ投ゲテ往來ノ妨ゲヲナス。コレ等ハ學校ニ教ヘヲ受ケ得ザル者、或ハ愚ニシテ教師ノ教ヘニ隨ハザル者ニシテ實ニアハレナル兒童ナリ。汝等モシカレ等ト爭ハバ、カレ等ハ道理ニ服セズ却リテ汝等ニ一層ノ粗暴ヲ加フベシ。汝等ハ巡査ヲ知ルカ。巡査ハカクノ如キ亂暴者ヲ取リ抑ヘテ他人ノ妨ゲヲナサザラシム。巡査ハ又喧嘩ヲ鎮メ火事ニ注意シ

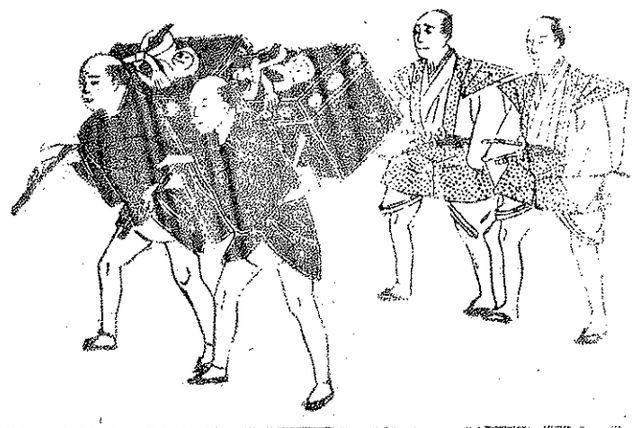
或ハ盜賊ヲ捕ヘテ裁判所ニ渡ス。裁判官ハコレ等ノ惡人ヲ受取リテソノ罰ヲ定メ、或ハコレヲ懲役ニシ、或ハコレヲ禁獄ス。裁判官ハ金錢ノ貸借、喧嘩、口論等ニ付キ雙方ノ曲直ヲ裁判ス。

國中ヲ穩ニセンニハ實ニ種種ノ役人ヲ要スルナリ。ソノ他或ハ郵便ヲ設ケテ書狀ノ往復ヲ便利ニシ、或ハ海岸ニ燈明臺ヲ建テテ夜中難船ノ目當テトナサシム。カクノ如キ事ハワレ等銘銘ニ成シ難キ者ナレバ、天朝即政府ニテコレヲ行ハルルナリ。然レドモ多クノ事務ニハ必多クノ入費ヲ要ス。サレバ汝等ノ父母ヲ始メ國中ノ人民ハ皆職業ノ利潤ヲ分チテ政府ニ納ム、コレヲ稅金ト云フ。天朝ハ、汝等ガ知ル如ク東京ニアリ。東京ヨリ縣知事ヲ諸縣ニ遣シテソノ地方ノ事務ヲ行ハシム。東京京都大坂ノ如キ繁華ナル處ヲバ縣トニ云ハズシテ府ト云フ。右ノ三地方ハ謂ハユル三府ニシテ、府ヲ支配スルハ府知事ナリ。

汝等ガ父母ノ若カリシ頃ハ縣知事モ無ク府知事モナカリキ。然レドモソノ頃ハ大名ト云



フ者アリテ地方ヲ支配セリ。大名ハ府縣知事ソ如ク交代スルコトナク、代代同ジ地方ヲ領シテ、ワガ物トシタリ。大名ニ從フ諸役人モ皆代代ノ相續ニシテ、コレヲ武士ト稱シタリ。大名ノ取リ締リヲ將軍ト云ヒ、ソノ頃ノ將軍ハ代代



徳川氏ナリキ。將軍ノ役所ヲ幕府ト云フガ故ニ、徳川將軍ノ時ヲ舊幕時代トハ云フナリ。

サテモ舊幕ノ時代ニハ武士ノ勢ノ強カリシコトヨ。人民ハ武士ト同席スルコト能ハズ、馬上ニテ武士ノ側ヲ過グルコト能ハズ。人民モ

シ武士ニ對シテ聊モ失禮スレバ斬リ殺サレテモ爭フコトヲ得ズ。マシテ大名ノ通行ニハ無數ノ武士御駕ノ前後ニ行列シ「下ニ、下ニ」ト聲ヲ掛ケ、人民ハ地上ニ拜伏シ敢テ首ヲ擧グルコトヲ得ザリキ。況又將軍ノ通行ニハ道筋ノ人家ニ戸ヲ閉ヂシメ、拜見ヲダニ許サレザリシモ道理ナリ。カカル世ヲ見知レル老人ガ幸ニ今ノ世ニ生キ殘リ、容易ク行幸ヲ拜シテハ、覺エズ涙ニ咽ブト云ヘリ。

犬ト猫

犬ニ追ハレタル猫辛ウジテ木ニ上リ、犬ヲ顧テ曰ハク「君何故ニ余ヲ害セントスル。」犬ハ齒ヲ顯ハシ、聲ヲ大ニシテ曰ハク「何トナレバ汝ハ柔弱ノ小獸ナレバナリ。」余ハ汝ヲ害スルコトヲ得レバナリ。猫靜ニ曰ハク「君過テリ。余ハ柔弱ナル小獸ナリト雖、ソハ君ヲ妨グベキ事柄ニアラズ。余君ヲ妨ゲズ、君何ゾ余ヲ害スル。且余モ君モ同ジクコノ家ニアリテ各職務アリ。君ハ身體長大ニシテ歩行甚速ナリ、故ニ盜ヲ防ギ獵リニ隨フノ務メアリ。余ハ身體輕クシテ、

爪鋭ク、掌ノ肉甚軟ニシテ歩ムニ音ヲ立テズ、跳リカカル勢ハ恰電光ノ如シ、故ニ家ニ在リテ鼠ヲ捕ルノ勢メアリ。余ナカリセバ君ノ食モ麗鼠ニ奪ハレン。君モシカヲ恃ミテ余ヲ害セバ、君モ亦馬ニ踏ミ殺サルベシ。」ト云ヒ終リ、悠然トシテ屋根ニ移リ日光ノ暖ナル處ニ眠レリ。

鼠ノ智。

或ル田舍ノ人干シ鮑ヲ貯ヘシガ、鼠ノ患ヘヲ避ケントテ、紙袋ニ入レタルママ臺所ノ眞中ニ釣リ置ケリ。

一夜臺所ノ方ニ當リテ頻ニ「パシ、パシ」ト音シケレバ、主人ハ怪ミテ戸ヲ細目ニアケ、窓ヨリサシ入ル月影ニスカシ見レバ、面白キコトコソアレ。二匹ノ鼠カハルガハル水桶ニ尾ヲ指シ入レテ、棚ニ上リテハ身ヲ揮ヒ、カノ紙袋ニ水ヲ彈クニゾアリケル。サテモ不思議ナル事ヲスル者カナト、暫見ル中ニ袋ハ水ニ浸サレ、中ナル鮑ハオノヅカラ袋ヲ破リテ「バタバタ」ト牀ニ落チヌ。鼠ハ直チニ食ハントモセズ、何方ヨリカ古草履ヲ引キ來テ、ソノ上ニ積ミ上ゲ、一足ハ前ヨ

リ引キ、一匹ハ後ヨリ推シナガラ持チ行キケリ。主人ハ鼠ノ智ニ感心シテ、敢テ驚サントモセズ、ソノ儘見ユルシケリトゾ。

雀ノ智。

或ル寺ニ年ゴロ巣ヲクヒタル雀アリシガ常ニ蛇ノタメニ卵ヲ取ラレケリ。或ル日下男ガ境内ヲ掃除シケルニ、一疋ノ蛇血ニ染リテ斃レ居タリケリ。ソノ死骸ヲ見ルニ胸ヨリ尾マデ一文字ニ裂ケタリケレバ、誰レ人カ、カカルワザヲセシナラント、血ノ跡ヲ尋チ行クニ、ソノ血築牆ノ上ニテ止リヌ。見ヨ、築牆ノ上ニ瀬戸物ノ缺ケ一片血ニ染リテ立チタリ。サテハ雀ガ蛇ノ道ヲ知リテコノ瀬戸物ヲ植エケルニコソト皆人感心セシト云フ。

卵。

雞ノ卵ト魚ノ卵ト何レガ大キナル。雞ノ卵ハ大キナリ、魚ノ卵ハ小サシ。諸君ハ魚ノ子ヲ知ルナラン。魚ノ腹中ニアリテ二ツノ指ニ似タルモノハ魚ノ卵ノ集レルモノナリ。ソノ卵一粒ノ大キサハ大抵粟粒ノ如ク、或ハ砂ノ如シ。

然レドモ鮭ノ卵ハ稍大キクシテ、大ヨツ豌豆ノ如シ。鮫ノ卵ハ甚大ニシテ雀ノ卵ニモ劣ラズ。

雞ノ卵ハ養生ニ宜シキ食物ナリ。ソノ一粒ノ大キサ大抵十五匁程アリ。卵ノ殼ノ内方ニ薄キ皮アリ。薄皮ノ内ニ白身アリ。白身ハ黄身ヲ包メリ。白身ハスキ透リテ水晶ノ如クナレドモ、煮ラルレバ固マリテ白クナル。固マリタル白身ハ養生ニ宜シカラズ。生卵ト半熟ハ最モ養生ニ宜シ。

卵ハ同ジ大キサノ水ヨリ重シ。故ニ水ノ中ニ入ルレバ沈ム。然レドモ卵ハ鹽水ヨリ輕キ故ニ鹽水ノ中ニ入ルレバ浮ブ。今卵ヲ鹽水ノ上ニ浮ベ、其上ニ眞水ヲ静ニ注グ時ハ、卵ハ眞水ト鹽水ノ間ニアリテ、沈ミモセズ、浮ビモセス。道理ヲ知ラザル人ハ之ヲ見テ甚驚カン。

卵ノ貯フルニハ暗クシテ涼シキ所ヲ善シトス。汚ト物ヲ殼ニ付クレバ腐リ易シ。

卵ヲ横ニ推セバ弱ク、縱ニ推セバ強シ。横ニ推ス時ハ二本ノ指ニテモタヤスク破ルベシ。縱ニ推ス時ハ卵百粒ノ重サニモ破ルルコト無

シ。卵百粒ノ重サハ一貫五百目モアルベシ。

養生。

山田ヨリ「川路君、風邪ハ全快セシカ。」川路答フ「漸ク全快シタリ。病中ニハ君ノ親切ナル音信ニ由リテ、不幸ナル月日ノ中ニモ、心ヲ慰ムルコト屢ナリキ。君ノ厚意ハ長ク忘ルルコト有ルマジ。僕ノ父母兄弟モ亦深ク君ノ厚意ヲ感謝セリ。僕ハ實ニ惡シキ風邪ニカカリシナリ。世ノ中ニ宜シキ風邪ハアルマジケレド、僕ハ殊ニ烈シク受ケシナラン。一時ハ熱ノ爲メニ耳サヘ遠クナリキ。

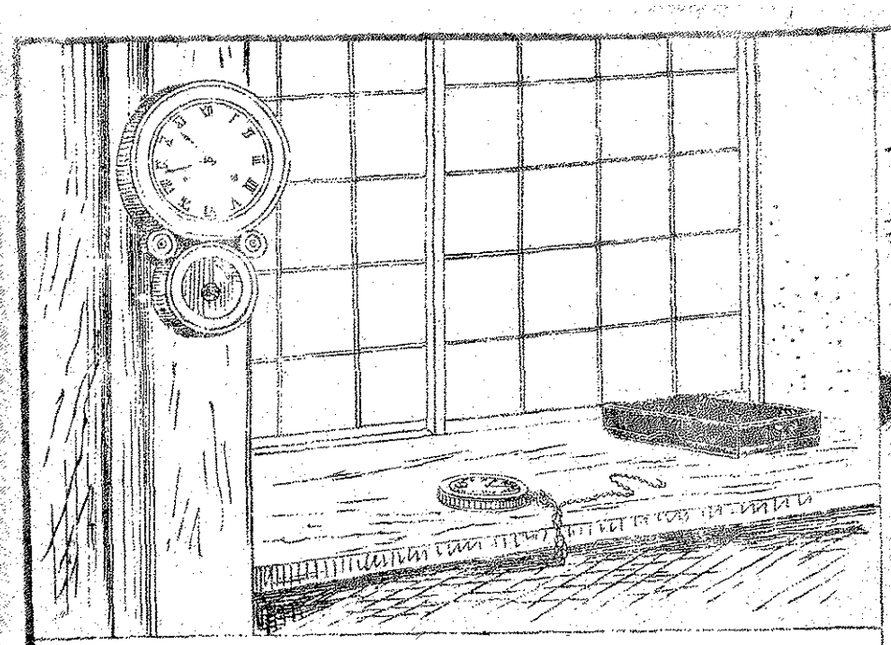
「凡病中ニハ笑ヒヲ催スコトハ甚少キ物ナレド、僕ハ實ニ吹キ出シタルコトアリキ。耳ノ遠カリシ頃、醫師僕ヲ診察シテ『君ノ身體ハ甚弱レリ。君ハ生卵ヲ吸ヒ得ルカ。』ト問ヒシニ『否、先生僕ハ甚烟草ヲ嫌フ。』ト云ヒケレバ、醫師ハ大聲ニテ『烟草ニハ非ラズ、卵ナリ。』ト云ヒシ時僕モ覺エズ大ニ笑ヒキ。」

山田ヨリ「君ハ猶絶エズ卵ヲ用ヒ給ヘ。病後

ハ殊ニ養生ヲ怠リ給フナ。コノ頃養生ノ演説ヲ聞キシニ卵ノ白身ヲ蛋白ト云フ。蛋白ハ最血肉ヲ補フ食物ナリト。然レドモ蛋白ハ唯卵ノ白身ノミナラズ、黄身ノ中ニモ甚多ク、肉類、穀類ノ内ニモ亦コレアリ。牛肉、牛乳、魚肉ハ多ク蛋白ヲ含ミテ甚好キ食物ナリ。穀物ノ中ニハ豆類ニ最蛋白多ク、ソノ次ハ麥ニシテ、米ハ又其次ナリ。豆腐ハ豆ノ蛋白ヲ集メタルモノナリ。故ニ豆腐ヲ食フハ其ノ功卵ヲ食フガ如シト。

時計。

柱時計ノ長針、短針、共ニ天ヲ指スハ十二時ナリ。十二時ハ即正午ニシテ晝飯ノ時刻ナリ。ワレ等ハ暫課業ヲ休メドモ長針、短針ハ暫モ止マルコトナク猶右ノ方ニ進ム。長針ノ進ミハ短針ヨリ早ク忽短針ヲ越エテ遂ニ時計ノ面ヲ一回シ、再天ヲ指スニ至ル。コノ時短針ハ僅ニ右ニ轉ジテ、正ニ一ノ字ヲ指ス、コレ午后第一時ナリ。長針ノ一周スル間ハ即一時間ナリ。コレヨリ一時間ヲ經テ長針ハ又一回シテ天ヲ指ス、コノ時短針ハ二ノ字ヲ指ス、即第二時ナリ。



力クノ如ク短針ガ次ノ數字ニ達スル毎ニ長針ハ常ニ一周ス。數字ハ一ヨリ十二ニ至リ、十二ハ即頂上ニアリ。數字ヲ周リテ細ナル度盛リアリ、コレ圓板ノ周リヲ六十ニ等分セルナリ。長針ガコノ一度ヲ過ル間ヲ一分ト云フ。故ニ一周即六十分ハ一時間ナリ。モシ短針ハ二時ヲ指シ長針ハ天ヲ指リサバ、コレ精密ニ二時ナラン。コレヨリ長針地ヲ指セバ二時半即二時三十分ナリ、次ニ天ヲ指セバ精密ニ三時ナリ。遂ニ十二時ニ至リテ、兩針共ニ天ヲ指ス、コレ正ニ夜半ニシテ、コレヨリ午前一時、二時ト次第ニ數フルナリ。

時計ノ面ニ小ナル圓ヲ畫キ、ココニ亦針アリテ甚急ガシク回轉ス。コノ回ルコト甚速ニシテ、一分ノ間ニコノ小圓ヲ一周ス。コノ圓ニ亦

六十ノ等分度アリテ、針ガコノ一度ヲ進ム間ヲ一秒ト稱ス。一秒ノ間ハ大抵脈ノ一動ニ同ジ。人ノ脈ハ一分ノ間ニ六十乃至八十動ヲ常トス。脈動ノ甚急ナルハ必病アルナリ。兒童ハ皆時計ノ中ナル機械ヲ知ラント欲スルナラン。時計ノ面ニ穴アリテソノ中ヨリ軸ノ端ヲ顯セリ。コノ軸ニ強キ細キ鉄板巻キ付ケリ、コレヲぜんまいト云フ。人ハ毎日コノ軸ヲ捻リテぜんまいヲ捲ク。然ルニぜんまいハ巻キ戻ル爲メニ運動ヲ起ス。コノ運動ヲ傳ヘテ以テ針ヲ廻ス

ナル。

朝起キト朝寝。

早川ハ善良ナル少年ナリ。彼レ冬ノ朝ニハ六時ニ起キ、夏ノ朝ニハ四時ニ起キ己レガ室ヲ掃除シ畢リテ後、庭ニ出デテ散歩スルコト半時間計リナリ。朝ノ空氣ヲ吸フハ甚快キコトナリ。早ク起キテ父母兄弟ト共ニ膳ニ向フハ亦甚快キコトナリ。コノ少年ハ朝飯ヲ畢リテ後、静ニ學校ノ支度ヲナス。故ニ身體常ニ壯健ニシテ、心常ニ愉快ナリ。又課業ノ時刻ニ後ルル

コトナク、課業ノ用具ヲ忘ルルコトナシ。

古池ハ惡シキ少年ニアラズ。然レドモコノ少年ハ朝寐ノ癖アリ。力レ常ニ日高クシテ後ニ起キ、唯一人淋シク膳ニ向ヒ、忙シク食事ヲ終ヘ、狼狽シテ書籍ヲ包ミ、學校ニ向ヒテ走リ行ク。食事ノ後直ニ烈シキ運動ヲナスハ甚害アルコトナリ。故ニコノ少年ハ身體柔弱ニシテ屢胃病ニカカリ、心モ常ニ忙シキ癖アリ。學校ニテハ屢時刻ニ後レ、後レザル時モソノ非常ニ走リシガ爲、身體踊ルガ如ク、目廻ルガ如ク、業ニ就クコト甚困難ナリ。或ハ石筆ヲ忘レ、或ハ鉛筆ヲ忘レテ教師ヨリ忠告ヲ受クルコト屢ナリ。コノ少年ハ怠惰ニシテ然ルニアラズ、唯朝寐ノ癖アルガ故ナリ。

昔ヨリ、百歳ノ長命ヲ保チシ人、大學者ト云ハレシ人、豪傑ト聞エシ人ハ皆平生朝起キノ人ナリ。朝起キノ習ハシハ數日モシクハ數月ニテ成リ、朝寐ノ癖ハ一兩日ニシテ直チニ成ル。

小ハ大ヲ成ス。

數人ノ少年野外ニ遊ビ、遥ニ富士山ヲ望ミ、近

ク東京ノ海ヲ眺メタル ニ、學校ノ教師ト覺シキ人出デ來レリ。身ニハ黑キ洋服ヲ着シ手ニ一本ノ鞭ヲ持チ兒童ヲ招キテ曰ヒケルハ「ワガ兒童ヨ、ヨク聽ケ。一塊ノ土モ集マレバ山ヲ成シ、一滴ノ水モ積レバ海ヲ成ス。見ヨ、一滴ノ雨相集リテ、溝トナリ、又集リテ隅田川トナリ、或ハ多摩川トナリ、遂ニコノ海水トナル。富士山ノ高キモ亦土、石ノ集レルニ過ギズ。「塵モ積レバ山ト成ル」。汝等僅ノ物ヲ侮ルコト勿レ。

蟹ガ植エタル柿ノ種ハ初メ二葉ノ芽ヲ生ジ、

蟹ノ鋏ニテ夾ミ切ルベキモ、遂ニハ周リ數尺ノ大木トナリ、年年數百ノ實ヲ結ブ。モシ盡クコノ實ノ種ヲ取リ、亦コレヲ地ニ植ウルナラバ後來ソノ林ニ實ヲ結ブコト果シテ幾何ナラン。

これらノ虫ハ目ニ見エザル小虫ナリ、ソノ百匹ヲ集ムトモ一足ノ子ニ及バザラン。力カル小虫ト雖不健康ノ人ノ體中ニ入レバ暫時ニ數万ノ子ヲ生ジテ忽ソノ人ヲ殺ス。大河ノ堤ニもぐらノ穴アレバ河水コレヨリ入リテ漸漸大ナル穴ヲ成シ、遂ニ全ク堤ヲ破ル。汝等ハ今

朝ノ新聞ヲ見シカ。某ノ町ノ不注意ナル人達つちノ焙ヲ石油ノ中ニ落シタルガ、忽満室ノ火トナリ、遂ニソノ町ヲ類焼シ盡シヌ。汝等小キ物ヲ侮ルコト勿レ。これらノ小虫ハ六尺ノ人ヲ殺シ、鼴鼠ノ穴ハ大河ノ堤ヲ破リ、まつちノ焙ハ一市街ノ火トナル。悪ハ小ナルモ爲スコト勿レ、善ハ小ナルモ爲サザルコト勿レ。

カク云ヒ畢リテ、教師ハ、森ノ方ヘト歩ミナガラ手拍子ヲ取リテ歌ヒテ曰ハク怠ラズ日日ニ育テバオノヅカラ一ユノ時潮風ノ聲起リテ歌ハ聞ヒベ、教師ノ身ハ已ニ森ノ中ニアリ、暫ニシテ鶴ガ巣ヲ組ム高砂ノ松ト云フ聲幽ニ聞エ、手拍子ノ聲ハ猶明ニ森ニ響ケリ。

空氣

人ハ空氣ヲ呼吸シテ休ム時ナシ。試ミニ呼吸ヲ止メテ見ヨ、呼吸ヲ止ムルコト長カラバ苦痛、甚シクシテ、遂ニ死ニ至ラン。閉チタル室ニ多人數相集レバ、人皆息ぐるしまるヲ感ジ、初メハ眠リヲ催シ、遂ニ頭痛ヲ感ズ。コレ何故ゾヤ。余ハ今コレヲ話スベシ。人ノ身體ハ日日汚物

ヲ生ズ、而シテ外面ニ出ヅル汚物ハ即垢等ニシテ、コハ水ヲ以テ洗ヒ去ルベシ。内部ノ汚物ヲ去ルニハマヅ空氣ヲ吸ヒ、次ニ息ト共ニ汚物ヲ吐キ出スナリ。故ニ閉ヂタル室ノ中ニ於テハ汚物暫時ニ增シテ人ノ健康ヲ害スルナリ。難風ノ時船ノ窓ヲ閉ヂ込メラレテ、乘客皆死セシコト屢アリキ。又空氣ノ通ハザル監獄ノ内ニテ多クノ罪人一夜ニ死セシコトヒアリキ。

猿ハ暖國ニ適スル者ナリ。昔或ル寒國ノ人暖國ノ猿ヲ多ク取リ寄セテ飼ヒシガ、猿ノ漸漸衰弱シ又ハ病死スルヲ見テ、コハ必氣候ノ寒キニ由ルナラントテ、翌年ノ冬小キ土藏ヲ造リテ猿ヲ入レ置キケリ。然ルニ怪ムベシ、コノ冬ニハ猿ノ衰弱シ、病死スルコト、先年ヨリモ甚シカリキ。コレヲ以テ見レバ空氣ノ通ヒ不十分ナルハ寒氣ノ害ニ勝ルモノナルベシ。空氣ハ人ニ對シテモ、獸ニ對シテモ、實ニ欠クベカラザル者ナリ。

君等ハ嘗テ讀ミシナラン「魚ガ水中ニ住ムハ猶人ノ空氣中ニ住ムガ如キヲ。然ラバ魚ハ唯

水ヲ要シテ空氣ヲ必要トセザルカ。吾魚モ亦空氣ヲ必要トセリ。水ハ常ニ空氣ニ接スルガ故ニ多少ノ空氣ヲ含メリ、魚ハ水ト共ニコノ空氣ヲ呼吸シテ生活スルナリ。狹キ池ニ多クノ魚ヲ飼ヒ、又ハ小ナル桶ニ大ナル魚ヲ飼フ時ハ、魚ハ漸漸衰弱シテ遂ニ死スルニ至ル。人ハコレヲ見テ曰フ「魚ガ鼻ヲ突キテ死スルナリ」ト。コレ決シテ鼻ヲ突キテ死スルニアラズ、水中ノ空氣ヲ暫時ニ吸ヒ盡シテ遂ニ死ニ至ルナリ。サレバ新シキ水ヲ時時給スルトキハ魚ハ死セザルコトヲ得ベシ。

唯獸及ビ魚ノミニアラズ鳥類、虫類モ亦カクノ如クニシテ多少空氣ヲ呼吸セリ。コレ等ノ物バ大ナルコト牛、馬ノ如キ。ヨリ始メ、小ナルコト蟻ノ如キニ至ルマデ皆心ニ隨ヒテ運動ス、故ニ動物ト名ヅケラル。コレニ反シテ、草木ノ類ハミヅカラ場所ヲ移スコト能ハズ、松、檜ノ大木ヨリ、芝草、苔ノ類マデ皆一定ノ場所ニソノ根ヲ植エラレタリ。故ニコレ等ハ植物ト名ヅケラル。而シテ植物モ亦空氣ヲ呼吸スト云ヘリ。コレ

甚恠ムベキニ似タレドモ、コレニ就キテハ實ニ面白キ話シ多シ。君等後日高等ノ科ニ昇ラバ必知ル所アルベシ。

動物ノ功

雞ハ早ク起キテ時ヲ告グ、故ニ農家ノ時計ニ代ヘテ用ヒラレタリ。雞ノ肉及ビ卵ハ人ノ養ヒトナルコト牛肉ニ劣ラズ。

雁、鴨、雉、鶉等ノ野鳥ノ肉モ亦食物トシテ上品ナリ。鳥ノ中ニテ養ヒノ最多キハ鳩ナリ。

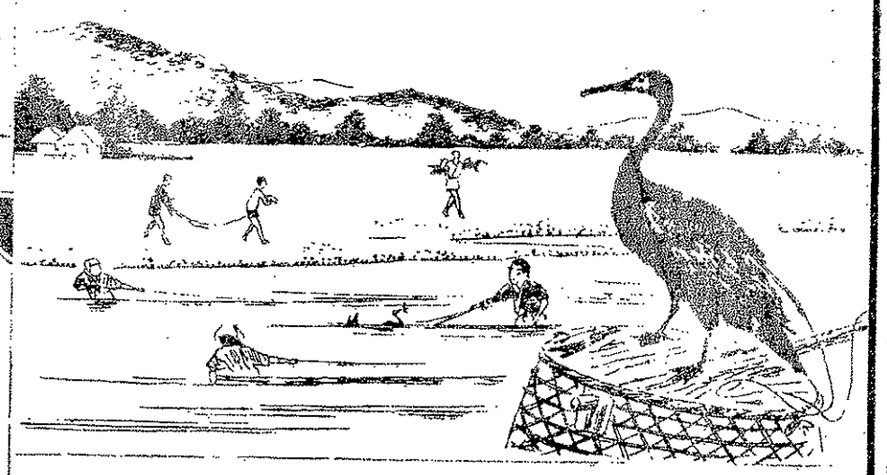
聲美シク或ハ毛色美シクシテ人ニ愛セラルル者ハ、鶯、文鳥、かなりや等ナリ。鶯ハ緑ヲ帶ビタル茶色ノ鳥ニシテ、謂ハユル鶯茶ハソノ色ニ近シ。鶯ハ春ヨリ夏ニカケテ囀ル、ソノ聲諸鳥ニ冠タリ。文鳥ハ紅ノ嘴、白キ胸ヲ持テル、美麗ノ小鳥ナリ。かなりやハ黄色ノ小鳥ニシテ、毛色、音聲兩ナガラ愛スベク、且飼ヒ易シ。杜鵑ハ夏ノ曉ニ啼クコト多ク、ソノ聲甚好キニアラザレドモ、時刻閑靜ニシテ、何トナク人ヲ感ゼシムル趣キアリ。故ニ古來歌人ニ賞セラレテ。

聞ク度ニ珍シケレバ、杜鵑、イツモ初音ノ心

地コソスレ」ナド云ハレタリ。

鸚鵡、かけすニハ一定ノ美音アラザレドモ、能ク諸鳥ノ眞似ヲナシ、或ハ人ノ聲ヲ眞似ビ、誠ニオカシク興アル鳥ナリ。諸子モシ鳥屋ノ前ヲ過ラバ、彼レ等ガ「才竹ドン。」「才ツカサン」ナド云フヲ聞クナルベシ。コレ等ハ皆人ヲ樂マシムルノ鳥ナリ。

鷹ハ人ニ使ハレテ鳥ヲ捕ル。鵜モ亦人ノ爲ニ魚ヲ捕ル。鷹狩ノ遊ビハ既ニ廢レタレドモ、鵜川ノ業ハ今猶存セリ。鵜ハ黑キ水鳥ナリ。



コレヲ使フニハ紐ヲ付ケテ川ニ放チ、漁師ガ追ヒ寄セタル魚ヲ呑マシム。四、五匹ヲ呑メバ、鵜使ヒハ鵜ヲ引キ寄セテ、魚ヲ吐カシム。世ノ諺ニ輕輕シク人ノ言ヲ承知スルヲ「鵜呑ミ」ト云フハ鵜ノ丸呑ミニ譬ヘタルナリ。東京近傍ナル

多摩川ノ鮎ヲ取ルニ今猶鵜ヲ使フコトアリト云フ。

烏ハ形見苦シク、聲聞キ苦シキガ故大ニ人ニ嫌ハル、而モ猶朝ニハ早ク起キテ朝寐ノ人ヲ驚シ、或ハ市中ノ汚キ物ヲ食ヒテ多少人ノ害ヲ除ク。**雀**ハ何ノ能モナキガ如クナレドモ能ク虫ヲ食ヒテ植物ノ害ヲ除クコト諸子ノ嘗テ聞キシ所ナリ。**ソノ聲**ハ美ナラザレドモ頗愛スベシ、故ニ

「元日ヤ晴レテ雀ノ物語」リ。

ナド云ハレタリ、

馬、牛ガ人ノ為ニ重荷ヲ負ヒ、或ハ蠶ガ絹糸ヲ吐クハ人間ノ最謝スベキ所ナリ。**世界**ノ動物トシテ徒ニ食ヒ、徒ニ眠ル者ナシ、況人間ヲヤ。

「**人**ニシテ鳥ニ如カザルベケンヤ」トハコノ事ナリ。**或**ル人ハ怠惰ナル人ヲ見テ「ア、世界ニ無用ナル動物ハ唯人ナルカ」ト歎息セリ。

猿ノ人眞似。

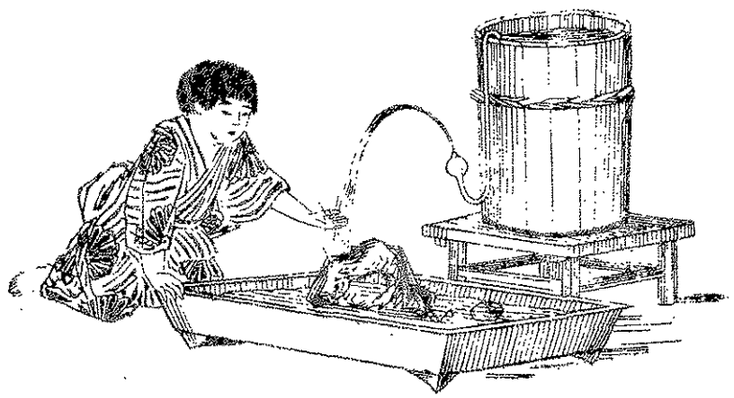
或ル人山中ヲ旅行シケルニ一匹ノ大猿仰向ニ寐タルアリケリ。**何**ヲスルナラント暫見テ

居タルニ一羽ノ烏飛ビ來リテ猿ノ面ヲ啄カントスルニ猿ハ透カサズ手ヲ揚ゲテ烏ヲ捕ヘケリ。コノ時大小ノ猿續續ト出デ來リ、大猿ニ手傳ヒテ烏ヲ藤蔓ニテ縛リ、頻ニ山川ニ拋ゲ入レケリ。思フニコノ猿共ハ鵜川ノ業ヲ見テ、ソノ眞似ヲスルナリケリ。

猿ハヨク人ノ眞似ヲナシ、往往芝居ヲナスモノアリ。**猿**ノ四足ハ皆手ノ如シ、故ニ後足ニテ仕事ヲナスコト前足ニ異ナラズ。サレバ猿ハ四手動物ナリト云ハレタリ。**猿**ハ善ク人ノ眞似ヲナセドモ善惡ノ差別ナク眞似スルナリ。モシ人アリテ、他人偽レバ己レモ偽リ、他人粗暴ヲ加フレバ己レモ粗暴ヲ加フルナラバ、コレ善惡ノ差別ヲ知ラザルナリ、何ヲ以テカ猿ノ人眞似ト異ナラン。

吹キ上ゲ。

幼童ノ玩ビ物ニ吹キ上ゲアリ。コレ多クハ硝子管ニシテソノ一端ヲ鈎ノ如クニ曲ゲ、ソノ他端ヲバ反對ノ方ヘ同ジク曲ゲ、コノ端ニ桃形ノ球アリテ球ノ頭ニ小キ穴アリ。今前ノ端ヲ



水桶ノ中ニ掛ケ、桃形ノ頭ヲ吸ハバ、カノ小キ穴ヨリ水ヲ吹キ上グベシ。コノ水ヲ金魚鉢等ニ受クルハ頗愉快ナル慰ミナリ。

桶ノ中ナル水面高ケレバ水ノ吹キ上ルコト亦高ク、水面低ケレバ吹キ上ルコト亦低シ。

吹キ上ル高サハ殆水面ニ近ヅカントスルガ如シ。

吹キ井戸ノ理モ亦コレニ同ジ、即井ノ水源ガ高地ニ在レバナリ。

公園、庭前ノ噴泉モ亦高キ水源ヲ求メテ、コレヲ管ニテ引キタルナリ。

吾等モシ下端ノ曲リ目ヲ碎キテ球ヲ去ルコトアラバ、水ハ吹キ上ラズト雖必下ニ向ヒテ流レ落ツベシ。

力クノ如キ管ヲ**さいほん**ト云フ、即管ノ一端ガ鉤ニ曲リタル者ナリ。

さいほんヲ用ヒテ甚便利ナルコトアリ。

譬ヘバ大ナル桶ニ酒アリテ、ソノ底ニ滓又ハ濁リア

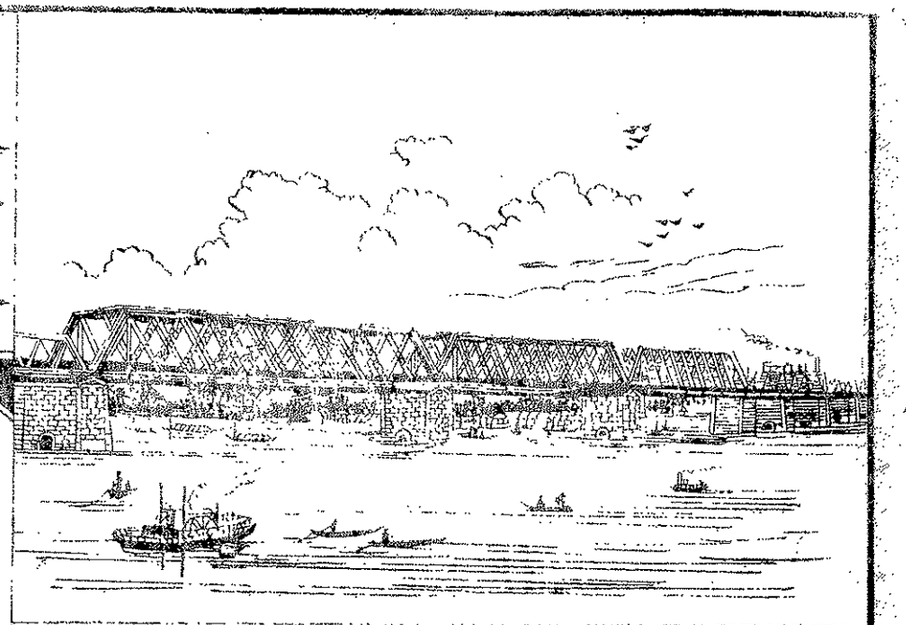
リトセヨ。今底ノ物ヲ動サズシテソノ上清ミヲ静ニ取ラントセバ、さいほんヲ用フルニ如クハナシ。酒ハ静ニさいほんヨリ出デテ聊モ底ヲ亂スコトナシ。

種種ノ器械

ワレ等ガ幼カリシ時ニハ皆風車ヲ弄ビキ。風車ノ大ナル者ヲ造ル時ハソノ廻ル勢ヲ用ヒテ、或ハ米ヲ搗キ、或ハ粉ヲ挽カシムルコトヲ得ベシ。汝等ハ嘗テ水車ヲ見シコトアリヤ。水ノ急流ノ中ニ、又ハ瀧ノ下ニ車ヲ仕掛ケテ廻ラシムルハ屢道路ニテ見ル所ナラン。汝等モシ車屋ニ入リテ見バ、ソノ車ノ心棒ハ家ノ内ニ入リ込ミテ頻ニ廻ルコトヲ見ルベシ。ソノ心棒ノ運動ヲ多クノ車及ビ棒ニ傳ヘテ、米搗キソノ他種種ノ業ヲナサシムルナリ。風車ノ仕掛ケモ大抵カクノ如シ。

何事ニテモ深ク考フル時ハ皆世ノ中ノ用トナスヲ得ベシ。譬ヘバ、湯ノ沸ク時ニソノ湯氣即蒸氣ガ鉄瓶ノ蓋ヲ上グルコトハ誰レモ知ル所ナリ。昔ノ學者ハコノ力ヲ用フルコトヲ考

へ、遂ニ蒸氣ノ力ヲ用ヒタル水汲ミ器械ヲ作リキ。ソノ後工夫漸積リ、船中ニ湯ヲ沸シソノ蒸氣ノ力ヲ以テ車ヲ廻シ、コノ車ヲ以テ水ヲ搔カシム。ソノ車ハ船ノ兩傍ニ在リテ恰魚ノ鰭ノ如ク、又游グ人ノ手足ノ如ク、以テ速ニ船ヲ進ム。力クシテ行ク舟ハ蒸氣船即汽船ナリ。汝等ノ中ニハ蒸氣船ヲ見シ者アラン、又讀本ニテソノ圖ヲ見シ者アラン。船ノ烟筒ヨリ揚ル黑烟ハ湯ヲ沸ス竈ノ烟ナリ。汽船ハ一日一夜ニ百里以上ヲ行ク、故ニ横濱ト神戸ノ間ヲバ大凡一晝夜餘ニシテ達スベク、函館横濱ノ間ヲバ大凡二晝夜ニシテ達スベシ。



汽船ノ後又蒸氣車ノ發明アリ。蒸氣車ヲ汽車トモ云フ。汽車モ亦汽船ノ如ク、蒸氣ノ力ヲ以テ車ヲ廻シ、コレヲ以テ數十輛ノ車ヲ引クナリ。ソノ道筋ニハ二條ノ鉄

ヲ敷キテ車ノ當ル處トス、コレ即鉄道ナリ。汽車ノ進行ハ一般ニ汽船ヨリ速ナリ。東京ト横濱ノ間ノ鉄道ハ八里計ナルガ、汽車ハ一時間以内ニ達スルナリ。京都ト大坂ノ間、ソノ他汽車ノ通フ處頗ル多シ。

動物ノ身體

兒童ハ皆動物ヲ好メリ。人モシ動物ノ身體ヲ子細ニ見ル時ハ多クノ面白キコトヲ見、又動物ノ爲ニ甚都合ヨク出來タルヲ見ン。

犬、猫、虎ソノ他ノ獸ハ冬ニ至レバオノヅカフ毛ヲ增シテ恰衣服ヲ重ヌルガ如シ。雪降ル頃ニハ、犬ノ勢殊ニ活潑ニシテ、犬ノ子ハ寒氣ヲ恐レズ雪ノ中ニ戯レ遊ブナリ。

犬、猫ニハ尖レル齒アリテ食物ノ骨ト肉トヲ離スニ甚便利ナリ。諸子ハ手ヲ猫ニ嘗メラレシコトアリヤ。猫ノ舌ニハいらいらスル刺アリテ恰鮫ノ皮又ハわさびおろしニ似タリ。故ニ猫ハ骨ニ付キタル肉ヲ嘗メ取ルニ甚巧ミナリ。

虎熊ノ如キ猛獸ニハ皆尖キ爪、尖キ牙、及ビ大

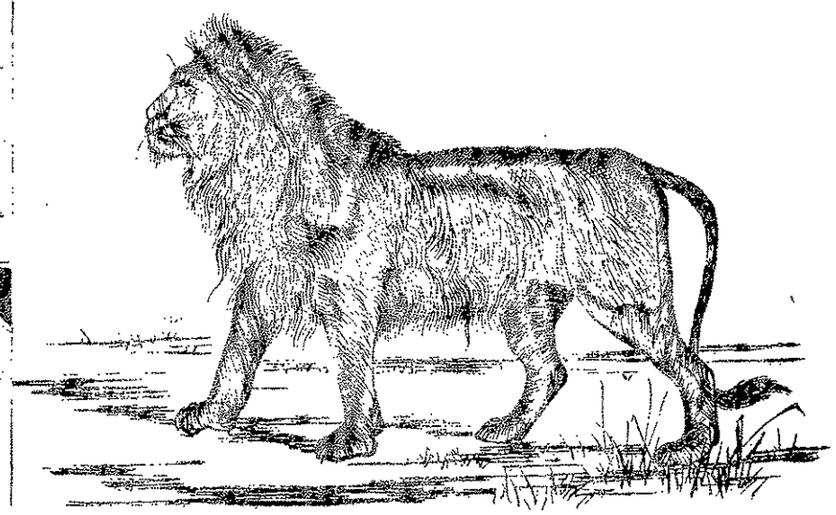
ナルロアリテ、ヨク他ノ獸ヲ殺シテ食ヒ及ビ敵ヲ防グノ用ヲナス。

鷺ハ淺瀨ヲ涉リナガラ食ヲ求ム、故ニソノ足長クシテ水ヲ涉ルニ宜シク、ソノ頸ト嘴長クシテ水中ノ魚ヲ取ルニ便ナリ。**鴨**ハ深ミニ入リテ食ヲ求ム、故ニ足ニ水掻キアリテ游グニ便ナリ。ソノ他魚、虫、貝類ニ至ルマデソレソレ適當ノ仕掛ケアリテ、或ハ害ヲ防ギ、或ハ食物ヲ取ル便アリ。

唯人間ノ身體ハ甚不都合ナルガ如シ。**人**ハ衣服ニ代フベキ皮ヲ有セズ、鋭キ爪、鋭キ牙ヲ有セズ、走ルコトハ馬、鹿ニ及バズ、飛ブコトハ雀、燕ニダモ及バズ。**唯**人ニ於テハ動物ニ勝レタル智慧ヲ有ス、故ニ耕作ヲ工夫シテ穀菜ヲ得、獵具ヲ工夫シテ魚、鳥ヲ得、衣服ヲ工夫シテ寒氣ヲ防ギ、武器ヲ工夫シテ敵ヲ防グリ。**智**慧アル時ハ飛鳥ヲモ落スベシ、猛獸ヲモ捕フベシ。**智**慧ノ器械ハ頭腦ナリ、腦ヨリ數多ノ管出デテ全身ニ通ジ各處ノ電信機ヲ成セリ、コレヲ神經ト云フナリ。

猫類ノ獸。

汝等ハ屢虎ノ圖ヲ見或ハ虎ノ話シヲ讀ミテ知ルナラン、虎ハ猫ニ似テ大ナル獸ナルヲ。虎ハソノ形ガ猫ニ似タル而已ナラズ身體ノ細ナル部分モ亦コレニ似タリ。今ソノ二三ヲ話サンカ。虎ノ足ニハ鋭キ爪アリ、足ノウラニハ軟ナル強キ肉アリテ歩行スルニ音ヲナサズ。虎ノ舌ニハ一面ニ刺アリテ、動物ノ肉ヲ嘗メ取ルニ利アリ。虎ハ走ルコト勝レタルニアラザレドモ、飛ビ掛ルコト非常ニ速シ。力ク猫ニ似タルコト多キヲ以テ虎ヲ猫類ノ獸ト云フ。



猫類ノ獸ニテ最猛キハ獅子ナリ。獅子ハ多ク熱國ニ住ミテ、ワガ國ニハコレナシ。ソノ毛灰色ニテ、面ハ頗長ク、眼ハ却リテ小サク、頭ニハ粗キ髪ヲ亂シカケタル形容スゴク恐ロシ。獅

子ノ猛キコト有ラユル動物ノ第一ナルヲ以テ百獸ノ王ト稱セラル。神社ノ兩傍ニハ必奇異ナル獸ノ石像アリテ、コレヲからゝゝ又ハこまいぬト云ヘリ。コハ昔日本人ガ獅子ノ形ヲ傳ヘ聞キ、推量ヲ加ヘテ作リシ者ナラン。

旅行

國見氏ニ子アリ、ソノ名ヲ良助ト云フ。國見氏ノ妹ニ子アリ、即國見氏ノ甥ニシテ良助ガ從弟ナリ。コノ子、不幸ニシテ、早ク孤トナリ、國見氏ニ養ハル。國見氏ハコノ子ヲ憐ムコト己ガ子ノ如ク良助ハコレト親ムコト弟ノ如シ。兩人ノ小兒書ハ學校ニ往キテ共ニ勉強シ、夜ハ父ノ膝ヲ圍ミテ面白キ話シヲ聞クコトヲ樂メリ。

今夜父ハ自分ノ旅行セシ話シヲヒリ。

父曰ハク「二十年前、余ガ父イマダ壯健ナリシカバ、余ハ京都見物ノ許シヲ得テ、江戸ヲ發足シケリ。頃ハ二月中旬ニテ龜戸ノ梅ハ漸蒼ヲ顯シタリキ。」

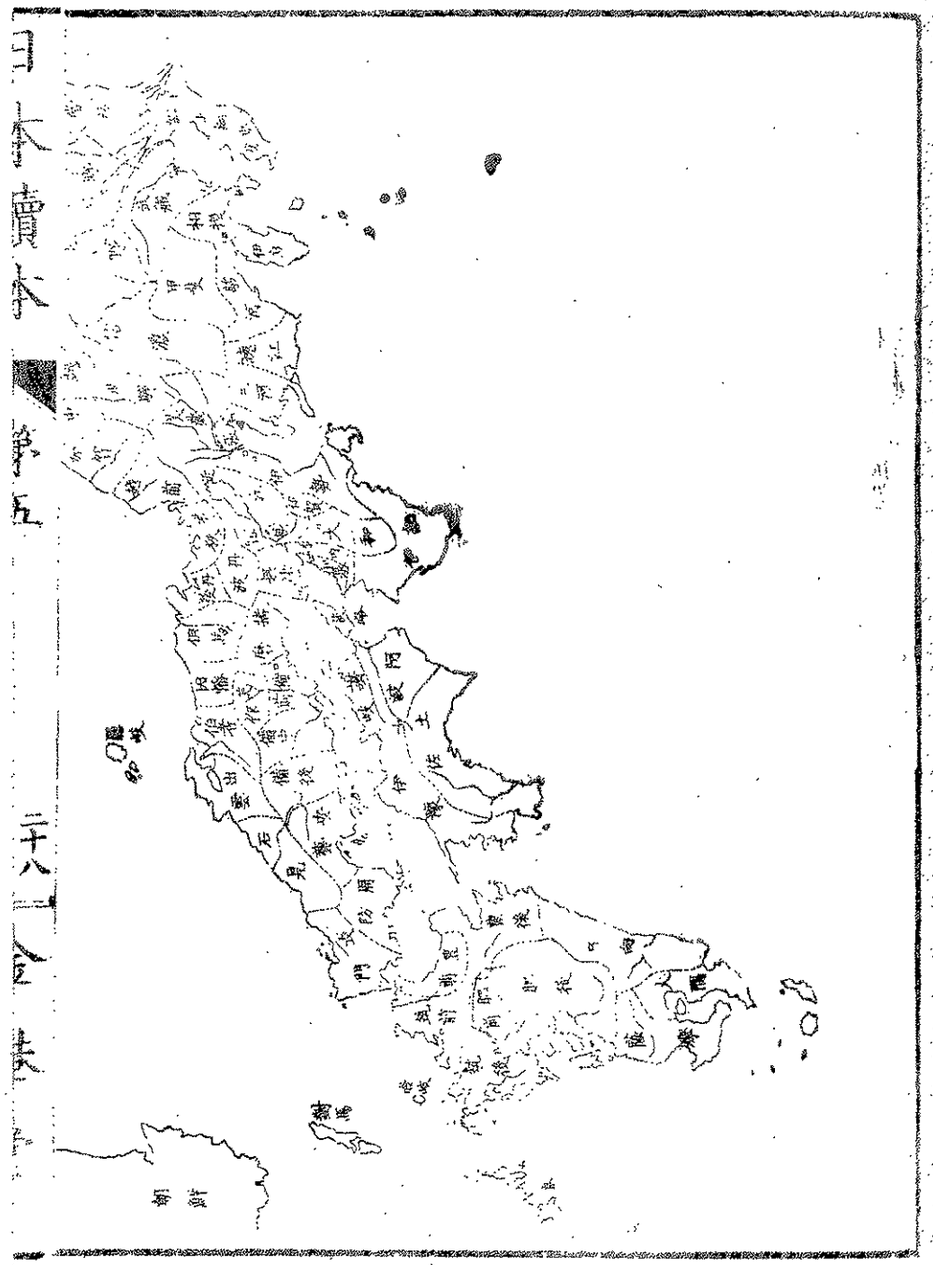
小兒等曰ハク「江戸ハ何處ナリヤ。」

父曰ハク「今ノ東京ハソノ頃江戸ト唱ヘラレ、

德川幕府ノ在ル處ナリキ。余ハ江戸ヲ發シテ東海道ニ差シ掛ル。

良助曰ハク「東海道ハ。」

父曰ハク「オヽ、ココニ地圖ヲ掛ケン。汝等ガ見ル如ク東京ハ海邊ニ在リ、コレヨリ西南ノ方、海岸ノ國國ヲ經テ京都ニ至ル大道アリ、コレヲ東海道ト云フ。余ハ發足ノ日相摸國ニ入リ、暫時間道ヲ經テ鎌倉ニ至リ、ココニ源氏、北條氏ノ古蹟等ヲ一見シ、又東海道ニ出デテ行ク。行キ行キテ箱根ノ峠ニカカル、コレ海道第一ノ險阻



某地理書ニ箱根蘆湖間四里三町ナリト

ナリ。峠ノ絶頂ニ湖アリ、峠ノ彼ナタハ駿河ノ國ナリ。

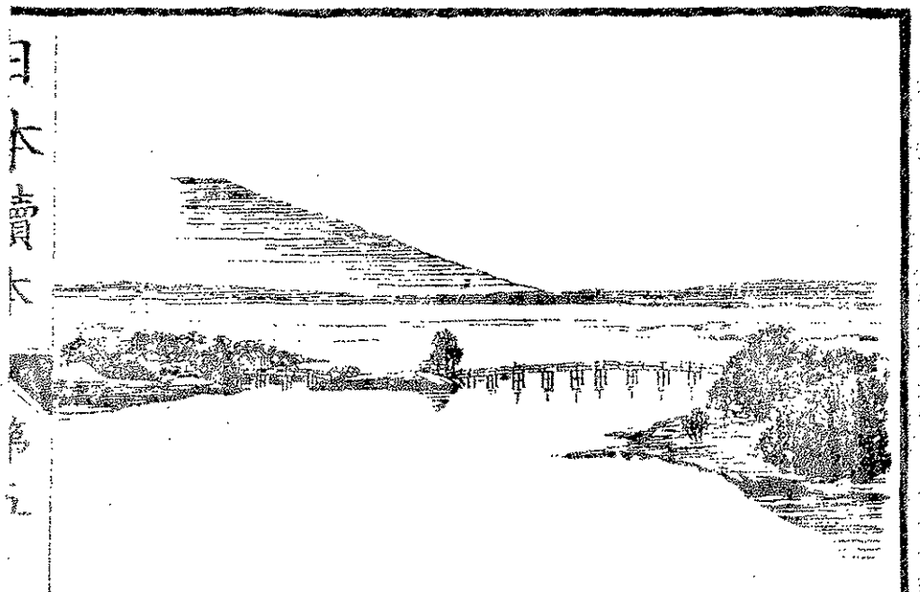
小兒等曰ハク、「富士山ノ在ル國カ。」

父曰ハク、「然リ。千年ノ昔、山邊赤人ガ「田子ノ浦ユ打チ出デテ見レバ、眞白ニゾ富士ノ高嶺ニ雪ハ降リケル。」ト云ヒシ田子ノ浦ハ今猶在リ、ソノ他三保ノ松原等何レモ景色好キ處ニシテ、富士ノ高嶺ハ常ニ隱レル處ナク、「今日モ見エ、明日モ見ヤケリ富士ノ山。」ト行ク程ニ駿河ト遠江ノ境ニ大井河アリ。コノ川ハ箱根峠ト共ニ海道一ノ難所ト稱セラレ、旅人ハ皆人足ノ肩車ニ乘リテ渡リシガ、今ハ橋掛リテ往來甚便ナリ。

「數」日ヲ經テ、汝等ガ知レル尾張ノ國ニ至リヌ。コノ國ニハ、名高キ熱田ノ宮アリ、汝等ハ歷史ヲ讀ム時ニコノ宮ノ話シヲ知ルベシ。余ハ熱田ヨリ入リ海ヲ渡ル、コレ伊勢ノ海ニシテ、前岸ハ即伊勢ノ桑名ナリ。桑名ノ南ナル海岸ニ四日市アリ、コレヨリ二日ニシテ直ニ京都ニ達スベ

石山秋月、唐崎夜雨、比良暮雪、瀬田夕照、矢橋帰帆、粟津晴嵐、三井晩鐘、堅田落雁

カリシヲ、余ハ枝道ヲ取リテマヅ伊勢ノ太神宮ニ參リ、然シテ後京都ノ東ナル近江ノ國ニ入リ、有名ナル近江ノ湖水及ビ水邊ノ近江八景ヲ見、勢多ノ夕日ト共ニ西ノ方京都ニ入リヌ。太神宮ハ天皇陛下ノ御先祖ナル天照大御神ヲ祭リ奉レル所ナリ。抑余ガ四日市ニ至リシハ發足ヨリ十日ノ後ナリキ。去年、余ハ汽船ニ乘リ僅ニ一晝夜ニシテ四日市ニ着シ、昔ノ旅行ニ思ヒ比ベテ、『アヽ、余ハ先年ノ余ニアラザルカ日本ハ昔ノ日本ニアラザルカ。』ト驚キキ。



「余ハ暫ク京都ニ逗留シテ嵐山ノ櫻ソノ他ノ名所ヲ尋ネ、更ニ南ノ方大和ニ遊ビ、音ニ聞エシ芳野山ノ櫻ヲ見シガ、誠ニ山ガ櫻カ、櫻ガ山カト云フ程ニテ、譽ムル語モナカリシヨ。サレバ昔ノ人モ『コレハコレハト計

リ、花ノ芳野山。

ト云ヒシナラン。余ハ芳野山ニテ後醍醐天皇ノ山陵ヲ拜シ、又ソノ他ノ古蹟ヲ尋ネ、コレヨリ大坂ニ行キシ話シヲセント思ヘド、時計ハ既ニ九時ヲ報ジタリ。汝等早ク寐テ早ク起キバ余ハ明夜コノ話ヲ繼グベシ。

〃笠置山〃

後醍醐天皇北條高時ヲ滅サントシ密密ニ謀リ給ヒタル中ニ、賊ハ早クモコレヲ知リテ、皇居ヲ攻メ奉ラントシケレバ、天皇ハ忍ビテ山城ノ國ナル笠置山ニ行幸アリ、コレヲ假リノ皇居トシテ近國ノ武士ヲ招キ給ヒキ。楠正成ガ初メテ拜謁セシハコノ時ナリキ。

正成ハ河内ニ歸リテ兵ヲ擧ゲタレドモ、笠置山ニハ猶名アル勇士等參リ集リテ門門ヲ警固シ、山ノ後ノ方ハ鹿ヒ踰ヒ難キ險阻ナリクレバ賊ノ大軍モ頗モテ餘シタリ。然ルニ賊將ノ中ニ後ノ方ナル間道ヲ知レル者アリテ、暗ニ乘ジテ忍ビ入リ火ヲ放チテ攻メケレバ勇士、猛卒モ防グコトヲ得ズ、各皆戰死シテ笠置ノ皇居終ニ

陷リメ。天皇ハ潛ニ逃レ出デ給ヒシガ事匆卒ナレバ、御車ハ勿論、御馬ダニナク、御供ニ立チタルハ藤原藤房、藤原季房兩人ノミ。

痛マシキカナ、深宮ノ中ニ成長シ歩行ニ馴レサセ給ハヌ御身ナレバ、一足ニハ休ミ二足ニハ立チ止マリ、晝ハ岩ノ陰、森ノ中ニ御身ヲ隱シ、夜ハ人モ通ハメ山道ヲ行キ迷ハセ給フ。マシテ三日ノ間御膳ヲ絶チシカバ君臣共ニ足撓ミ、今ハ如何ナル目ニ逢フトモ逃ゲナン御心モナカリケレバ、岩ヲ枕、草ヲ衾ト卧シ給フニ、松風ノ聲ヲ夢ウツツニ聞シ召シ、兩ノ降ルカトテ木陰ニ立チ寄リ給ヘバ露ノハラハラト御衣ニカカリケレバ。

「サシテ行ク笠置ノ山ヲ出デシヨリあめガ下ニハ隱レガモナシ。」

ト宣フ。藤房ハ涙ヲ抑ヘ、

「イカニセン、頼ム陰トテ立チヨレバ猶袖ヌラス松ノ下露。」

トゾ答ヘ奉リケル。

力カル御困ミノ中ニモ北條ヲ亡サンノ御心

少シモ折ケズ、諸國勤王ノ武士ハ頻ニ起リ、楠正成ハ河内ノ國金剛山ノ城ニ籠リテ北條ガ八十万ノ大軍ヲ引キ受ケ、新田義貞ハコノ間ニ上野ノ國ヨリ起リテ相模ノ鎌倉ニ攻メ入リ北條氏ノ一門ヲ滅シヌ。

旅行ノ二。

國見氏ガ京都ノ話シヲセシ翌夜良助等ハソノ話シヲ繼ガンコトヲ願ヘリ。父乃語シヲ初メテ曰ハク、京都ノ西南十三里ニ攝津ノ大坂アリ。コレ昔太閤様ノ城地ニシテ今ノ城ハ猶ア

リ。商賣ノ繁昌スルコトハ日本第一ノ地ナリ。

大阪ノ西八里ニシテ神戸ノ港アリ、今ハ横濱ヨリ汽船ニ乘レバ、二晝夜ニシテ神戸ニ達シ、神戸ヨリ大阪、西京ノ間ハ汽車ニテ往來スベシ。ソノ頃ハ汽船モナク、汽車モナク、神戸ノ港サヘマダ開ケザリキ。神戸ト兵庫ノ町ヲ界セル一筋ノ河アリ、コレ湊川ニシテ即楠正成ガ弟正季トト共ニ戰死セシ跡ナリ。正成正季死ニ臨ミテ相語リテ曰ハク、幾度モ人間ニ生レテ朝敵ヲ滅サバヤト。コノ忠義ノ言永ク世ニ傳ハリ、頼山陽ガ

作レル詩ニ

攝山逶迤海水綠、吾來下馬兵庫驛。想見楠兒呼弟來、戰此刀折矢盡臣事畢。北向再拜天日陰、七生人間滅此賊。

トヽヲ的アリ。明治ノ世ニ至リテ勅命ヲ以テ社ヲ兵庫ニ建テ、名ヲ湊川神社ト賜ヒ、永ク楠氏一門ノ忠臣ヲ祭ラセ給ヘリ。

余ハコヽノ遊覽ヲ終ヘテ江戸ニ歸ルベキ筏ノリシ代、西瀛事物ノ望ミ起リ来、余ハコヽノ願ヒヲ書北ニ紙ノ西京ノ紙リ物及ビ陶器大和ノ奈良晒シ、河内ノ木綿等ト共ニ飛脚屋ニ託シテ江戸ニ送リキ。今ノ世ナラバ電信ヲ以テ一日ノ内ニ返事ヲ得、荷物ヲバ汽船宿ニ託セシナラン。而シテ余ハ西ノ方攝津ノ海岸ニ隨ヒテ進ミキ。

攝津ノ西ノ境ニ須磨ノ浦アリ、前ハ海、後ハ山ニシテ、コレ昔九郎判官義經ガ鵯越ノ逆落シヲセシ一ノ谷ノ古戰場ナリ。コヽヲ過グレバ播磨ノ國ニシテ、コレヨリ山陽道ノ國國ナリ。山陽道トハ山ノ南ノ道ト云フコトナリ。汝等ガ見

ル如ク、本島ノ中央ニハ一帶ノ山脈アリテソノ南方ノ國國ヲ通ル道ナレバナリ。

播磨ニ入レバ明石ノ浦アリ。

「ホ」ノボノト明石ノ浦ノ朝霧ニ島ガクレ行ク舟ヲシゾ思フ。

ト云ヒシハコノ處ニシテ風景甚好シ。前ニハ淡路ノ島アリテ本島ト共ニ海ヲ抱キ、僅ニ細キ水ヲ殘シテ外海ニ通ビリ。力カハ細キ海ヲ瀬戸又ハ海峽ト云フ。コノ國ノ赤穗ノ鹽ハ日本第一ナリ。

「コ」レヨリ備前ニ入レバ備前ノ兒島アリ。兒島ハ昔ハ島ナリシヲ今ハ內地ト一筋ノ道ヲ通ジテソノ形袋ノ如シ。力クノ如ク島ニ似テ僅ニ內地ニ續ケル者ヲ半島ト云フ。進ミテ本島ノ尾ニ近キ處ニ至レバ、安藝ノ國アリテソノ海中ニ小島多シ、小島ノ第一ハ嚴島ナリ。嚴島ニハ有名ナル神社アリテ宮殿ノ結構、海陸ノ風景言語ニ盡シ難シ、謂ハユル日本三景ノ一ナル宮島ナリ。

「余」ハ例ノとかげノ尾ニ至リヌ。ココハ長門

ノ赤間ガ關ニシテ九州ニ渡ル船アリ。四國ニ渡ル船アリ。大阪ヨリ船路ニテ速ニ四國ニ至ルベキモ、余ハ山陽道百二十餘里ヲ經、殊ニ處處ヲ見物セシ故ニ、半月ノ日數ヲ費シテ、赤間ガ關ニ着キシハ五月ノ末ナリキ。四國ノ東北部ナル讃岐ノ國ニハ有名ナル琴比羅ノ神社、ソノ他古蹟モ多クアレド、余ハ後日ヲ期シテ、マヅ九州ニ向ヒキ。乃一線ノ海峽、謂ハユル早鞆ノ瀬戸ヲ渡レバ豐前ノ小倉ナリ。汝等頗退屈セシナルベシ、余ハ地理ノ話シヲ休ミテ、先ニ云ヒ掛ケタル義經ノ事ヲ話スベシ。

義經。

源義經ハ頼朝ノ弟ニシテ名高キ軍人ナリ。義經ノ猶幼キ時父義朝ハ平清盛ト戰ヒテ遂ニ殺サレ、頼朝ハ縛ラレテ伊豆ノ蛭ガ島ニ流サレ、義經ハ牛若丸トテ京ノ鞍馬ノ山寺ノちごトナリヌ。

平清盛ハ時ノ大臣ニシテ奢リヲ極メ、大子ヲナイガシロニシ、人民ヲ苦シメシガ、其ノ子宗盛父ノ後ヲ嗣ギ、愚ニシテ天下ヲ治ムルニ堪ヘザ

リケレバ、頼朝義經等ハコノ時ニ乘ジテ平家ヲ亡シ父ノ怨ミヲ報イ、天下ヲ平ニセントト思ヒ立チテ軍ヲ起シタリ。頼朝ハ相模ノ鎌倉ニ役所ヲ開キテコレニ居リ、義經ハ軍ノ大將トシテ常ニ戰場ニ臨メリ。

平家ハ源氏ノ爲ニ京都ヲ追ヒ出サレ攝津ノ一ノ谷ニ城ヲ構ヘタリ。コノ城ノ後ハ鵯越トテ絶壁刀ヲ以テ削リタル如ク鳥ナラデハ通ハズト云フ險阻ナレバ平家ノ人人安心シテ山手ノ守リ疎ナルヲ計リ知リ、大膽深智ナル義經ハ精兵ヲ從ヘテ山ヲ廻リ、彼ノ鵯越ヨリ逆落シニ攻メドリケレバ平家一戰ニ打チ負ケテ、四國ニ渡リ讃岐ノ屋島ニ止リヌ。

義經ハ平家ノ跡ヲ追ヒ大物ノ浦ニ至リシカ、折節風ハ地ヲ卷キ、浪ハ天ヲ蹴ル大アラシナルニ義經ハ一刻モ猶豫セズ、風波ヲ推シ切リ舟ヲ出シ、平家ノ不意ヲ討チテ屋島ヲモ追ヒ落シ、遂ニ長門ノ壇ノ浦ニテ平

家ノ、族盡ク亡サレヌ。

力クテゾ頼朝ハ將軍ニ任ゼラレ相模ノ鎌倉ニ幕府ヲ開キ、天下太平ニ治リケル。コレ偏ニ義經ノ武功ナレバトテ、朝廷ノ御用ヒモ重ク世ノ尊敬モ大方ナラザリシカ、不幸ニシテ頼朝ニ惡マレテ勘氣ヲ蒙リヌ。憐ムベシ智勇並ビナキ義經ハ日本國中ニ身ヲ寄スベキ處ナク、涙ヲ呑ミテ京都ヲ立チ退キケリ。義經ノ成リ行キニ付キテハ、余又話シヲ繼グトキアルベシ。

旅行ノ三

國見氏旅行ノ話シヲ繼ギテ曰ハク、小倉ヨリ街道二ツニ分レ、一ハ西ノ海岸、一ハ東ノ海岸ニ沿ヒテ相合シ、九州ヲ一周セリ。余ハ西ニ進ミテ筑前ノ博多ニ至リヌ。汝等ハ小倉袴、博多帶ノ名ニヨリテコノ地ヲ知レルナラン。博多ハ踊ル人ノ頸ニアル海濱ニシテ、コレヨリ西北ノ海上ニ二島アリ、近キヲ壹岐ト云ヒ、遠キヲ對馬ト云フ。對馬ニ至レバ海ヲ隔テテ北方ニ一ノ陸地アリ、コレ朝鮮ト云ヘル國ニシテ、ワガ日本ノ中ニアラズ。汝等ハ讀本ニテ既ニソノ圖

ヲ見テ、ソノ名ヲバ知ラザリシナラン。

「余ハ筑前ノ太宰府ニ至リ菅公ノ古蹟ヲ尋ネ、踊れる人ノ手ノ端ナル長崎ノ港ニ至リ、猶西岸ノ道ニ進ミテ右の足ニ至ル、コレ薩摩ノ國ニシテ、左の足ハ大隅ノ國ナリ。兩足ノ間ナル海中ニ櫻島アリテ、コヽニ富士山ノ形シタル山アリ、山ノ絶頂ヨリ絶エズ烟ヲ吹キ出セリ。富士山モ昔ハ烟ヲ吹キ出セシト云フ、コレ地ノ下ニハ常ニ火アルガ故ナリ。烟ヲ吹ク山ヲ噴火山又ハ火山ト云フ。汝等高等科ニ上ラバ先生ヨリ

火山ノ理ヲ委シク聞ク時アルベシ。六月中旬余ハ遂ニ東岸ナル日向ノ國ニ至リテ、神武天皇ノ住ミ給ヒシ宮崎ソノ他ノ古蹟ヲ探リキ。

「余ガ九州ニ入リシヨリ暑氣漸甚シク、江戸ノ人ノ曾テ知ラザル氣候ナリシガ薩摩、大隅、日向

ニ至リテハ暑氣益盛ニシテ堪ヘ難カリキ。江戸ニテハ葉櫻漸老イ、花菖蒲ノ風猶涼シキ頃ナルニ、日中ノ暑サハ江戸ノ極暑ニモ勝ル程ナリキ。南ニ進ム程氣候暑キモノナレバ、薩摩ノ南ナル琉球諸島ノ暑サ想ヒヤルベシ。

「余ハ暑サヲ忍ビテ東岸ヲ過ギ、再小倉ニ出デテ又赤間ガ關ヲ渡リヌ。コレヨリ中央山脈ノ北ナル諸國即山陰道ヲ通リテ京都ニ歸ラント思ヒシガ、コノ國國ニハ名所モ寡カラザレド、海岸岩多ク宜シキ港寡キガ故ニ商賣ノ都合十分ナラズ、石見但馬ノ金銀山ノ外ハ物産モ亦寡シ。余ハ商家ノ子ナルヲ以テ、成ルベクハ諸國ノ商賣ヲ見、又海路ノ樣子ヲモ知ラントテ願ヘリ。且余ハ稍陸路ノ旅ニ倦ミシヲ以テ赤間ガ關ヨリ船ニ乘リ東北ニ向ヒテ越前ノ敦賀ノ港ニ着キヌ。敦賀ハ北國一ノ都會ニシテ、とかげノ腰ノ縊レ目ニアリテ、近江ノ湖水ノ正北ニ當レリ。

「余ハ敦賀ヨリ再近江ノ國ニ入リ、東ノ方中央山脈ノ中ヲ旅行ス、コノ道ハ即東山道ナリ、東

山道ノ國國ハ中央ノ高地ナルヲ以テソノ水皆兩傍ニ流レ下ルコト恰屋ノ棟ニ水ヲ注グガ如シ。唯東山道ノミナラズ中央ノ山脈ハ皆然リ。

サレバ余ガ旅行セシ東海道山陽道ノ川川ハ皆中央ノ山脈ヨリ下リテ海ニ入ル水ナリキ。

「余東山道ニ進ミテ京都ト江戸ノ大凡中央ナル山國ニ達シヌ。コヽハ信濃ノ國ニシテ、有名ナル木曾街道ハ山又山ノ險阻ニシテ、百尺ノ絶壁ニハ岩石頭ノ上ニ崩レントシ千尋ノ谷底ニハ浪ノ音耳ヲ貫クガ如シ。コノ邊ハ氣候甚寒クシテ、七月ニ至リ麥漸熟スト云フ。富士山ニハ雪ノ絶エザルヲ合ヒ考フレバ、地面ノ高キニ隨ヒ氣候ノ寒キヲ知ルベシ。余ハ名高キ噴火山ナル淺間山ヲ麓ヲ過ギ、又信玄謙信ノ古戰場ナル川中島ヲ過ギ遂ニ長野ニ至リヌ。長野ハ山道一二ノ都會ニシテ、善光寺ト云ヘル大寺コヽニアリ。コノ邊ノ川川ハ相集リテ北ニ流レ信濃川ト上野ノ境ナル碓氷ノ谷ニ入ル。コヽニ至リテ方角ヲ考フルニ江戸ハ既ニ東南ニアリ。故ニ余ハ方角ヲ轉ジテヘノ字ニ曲リ、

氷峠ヲ越エヌ。コレヨリ江戸ヲ過ギテ鎖根ニ至ルマデハ全ク平坦ノ道ニシテ、謂ハユル關東ノたほたひら即日本第一ノ平原ナリ。

「余」江戸ニ歸リ、久々ニテ父母ニ見エ、余ガ面白キ旅行ヲ許サレシヲ謝シ、或ハ道中ノ事ヲ語リ或ハ互ニ壯健ヲ賀シ、ソノ喜ビヤ今猶目前ニ在ルガ如シ。余ガミヅカラ商業ヲ營ムニ至リ、運漕ノ便利ヲ考ヘ、諸國産物ノ有無ヲ考ヘテ、コノ産物ヲカレニ送リ、カノ産物ヲコレニ送リ、以テ多クノ利益ヲ得ルコトハ皆旅行ノ功能ナリ、父母ノ賜ナリ。

菅公

諸君ハ皆「天神様」ヲ知ルカラン、余ハ今天神様ノ話シヲスベシ。

平清盛ガ全盛ヲ極メシ以前藤原氏天下ノ政ヲ取リ、ソノ一門富貴繁昌ヲ極メタリ。宇多天皇藤原氏ノ我ガ儘漸増長スルヲ患ヘ給ヒ、イカデ頼モシキ大臣ヲ得テ、コノ我ガ儘ヲ防ギ天下ヲ太平ニスベキト思シ召シケリ。コノ時一人ノ豪傑アリ、即菅原道眞ニシテ、心正シク、智慧深

ク、諸ノ學問ニ通達セザル所ナカリケレバ、天皇モコノ人コソト思シ召シテ、文章博士ヨリ遂ニ右大臣マデ進メ給ヒキ。

道眞ハ深ク天皇ノ恩ヲ感ジ心ヲ苦メ思ヒヲ凝ラシテ、天下ノ政ヲ修メタリシガ、年移リテ醍醐天皇ノ御代ニナリヌ。

道眞ハ世間ノ妬ミ日日ニ益シ、藤原氏ノ怨ミ月

月ニ深クシテ、遂ニ無實ノ罪ヲ云ヒ掛ケラレテ、先帝ノ御心ヲモ果サズ己レガ志ヲモ遂ゲズ、大臣ヲ免ゼラレテ遠ク筑前ノ太宰府ニ移サレヌ。

道眞京ヲ出ヅトテ先帝ニ奉リシ歌ハ。

「流レ行クワレハミクヅトナリヌトモ、君シガラミトナリテ止メヨ。」

又妻子ニ別ルトテヨミシ歌。

「君ガ住ム宿ノ梢ヲ行ク行クニ、隱ルルマデニ顧ミシハヤ。」

ソノ心ノ中推量ルベシ。

道眞ハ太宰府ニ移サレテ後モ君ヲ怨ム心ハ露ホドモ無ク、九月十三夜ニ會ヒ、去年ノ今夜月見ノ御宴ニ侍リテ御衣ヲ賜ハリシコトヲ思ヒ出シ。

「恩賜ノ御衣ハ今在リ此ニ捧持シテ毎日拜ス餘香ニ。」

ナド君ヲ慕フ心愈切ナルヲ見テ人皆涙ヲ流シケリ。道眞ハソノ儘太宰府ニテ死セシガ後年ニ至リ、ソノ忠義漸明ニナリ、朝廷ニテ長ク道眞ノ忠義ヲ顯ス爲メ京都ノ北野ニ社ヲ建テ天滿大自在威德天神ト稱シテ祭ラセ給ヒタリ。

サレバ世ニ「天滿宮」トモ「天神樣」トモ云ノナリ。

甲越ノ戰

三百餘年前後奈良天皇ノ頃、將軍足利氏大ニ衰ヘテ諸國ノ大名ヲ制スルノ勢無カリキ。ココニ於テ大名各相攻メ、恣ニ他ノ領地ヲ奪ヒ、戰爭止ム時ナカリシカバ、憐レナル人民ハ皆人夫ニ疲レ、軍用ノ稅ニ絞ラレタリキ。天子ハ朝夕ノ御膳ニモシク、百官ハ蚊帳ヲ着テ衣冠ニ代フ。宮殿雨漏リテ兒童ココニ土ヲ煉リ御園草深クシテ農夫カシコニ馬ヲ放ツ、實ニアサマシキ世

ナリケリ。

コノ頃甲斐ノ國ニ武田信玄ト云ヘル大名アリケリ。甲斐ノ國ハ武藏ノ西ニ鄰セル山國ニシテ、ソノ武士ハ剛勇ナリ、ソノ大將タル信玄ハ無雙ノ智者ナリケレバ、近國ノ大名ヲ攻メ靡カシ、遂ニ北ニ鄰セル信濃ノ國ヲ攻メ取リヌ。信濃ヲ越ユレバ越後ナリ。越後ノ國ニハ上杉謙信アリ、コノ人無雙ノ勇將ニシテ、信玄ノ智、謙信ノ勇適好キ相手ナリ。

コヽニ信玄ノ爲ニ信濃ヲ追ハレタル村上義清ハ越後ニ行キテ謙信ヲ頼ミ、元ノ領地ヲ取リ返サンコトヲ願ヒケルニ、謙信固ヨリ男氣ノ人ナレバ、直ニ兵ヲ人ヲ救フニ猶豫セザル性質アレバ、五回、コレヲ河中島ニ戰フコト前後ヲ信濃ニ進メテ信玄ト河中島五度ノ合戰ト云フ。

信濃ノ國ヨリ出ヅルニツノ大河アリ、一ヲ筑摩川ト云ヒ、一ヲ犀川ト云ヒ、ソノ相集レルヲ信濃川ト云フ。筑摩犀ノ兩川ニ夾マレタル地ヲ河中島トハ云フナリ。抑甲越ノ戰ハ兩將互ニ智勇ヲ振ヒ何時果ツベシトモ見エザリケレバ、

一年河中島ノ戰ヒニ、謙信ハ信玄ト自身勝負ヲ決セント思ヒ、信玄ノ不意ヲ料リテ夜中ニ犀川ヲ渡リ、朝霧ノ中ヨリ烈風ノ如ク馳セ寄セ、ソノ身ハ白布ニ面ヲ包ミ駿馬ニ打チ跨リ、太刀ヲ拔キ翳シ、「信玄ハイヅクニ在ル」トゾ尋子廻リケル。

信玄ハコノ時牀几ニ腰ヲ掛ケ、敗ルル軍ヲ勵マシテ指揮シタルガ、謙信ヲ見テ「何物物シキ小忤メトテ立チ上ラントスル所ヲ謙信透キ間モナク馳セ寄セ、「坊主メ、坊主メ」ト續ケ打チニ打チケレバ、信玄ハ受ケ留メタル軍配團扇ノ甲斐ナクシテ肩先ヲ切ラレケリ。コノ間ニ甲斐ノ冬上等集リ來リテ謙信ヲ妨ゲケレバ、謙信ハ遂ニ信玄ヲ討チ洩シケリ。

力クテ甲越ノ勝負分レザルニ信玄ハ病死シ、幾バクモナクテ謙信亦世ヲ去リヌ。信玄戰ヲ

好ミシト雖、民ヲ愛スルコト亦頗厚カリシカバ、甲州ノ民、今ニ至ルマデ信玄ヲ敬マルコト衰ヘズト云フ。

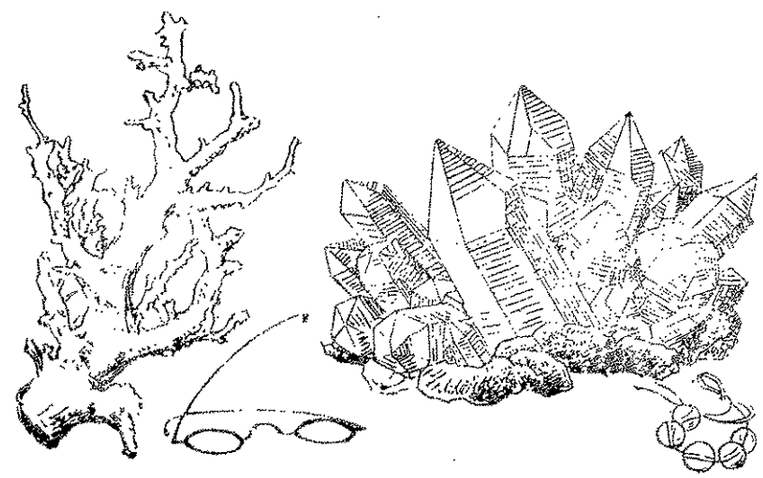
玉及ビ工業。

婦人ハ皆珊瑚ノ玉ヲ愛ス。或ハコレヲ簪ニ挿シ、或ハコレヲ繫ギテ髪ノ根掛ケトス。珊瑚ハ美麗ナル、紅色ノ物ニシテ、ソノ初メハ樹木ノ形ヲナシ、海底ノ岩ニ付ケリ、コレヲ枝珊瑚ト稱ス。日本ニテハ四國ナル土佐ノ海中ニ産ス。然レドモ上品ナル者ハ皆外國ノ産ナリトス。

珊瑚ハ樹木ノ形ナレドモ、コレ植物ニアラズ、海中ノ小キ虫ガ造レル所ニシテ、即小虫ノ家トモ云フベキモノナリ。

水晶ハ透明ニシテ硝子ノ如シ、紫水晶、薄赤水晶等ノ種類アリ。水晶ハ山中ノ石ニシテソノ初メハ六角ノ柱ノ形ヲ成セリ、ワガ國ニテハ甲斐ノ國ニ多ク産ス。コノ六角ナル水晶、或ハ枝珊瑚ノ如キハ皆たまずりノ手ニ渡リ細工ヲ經テ種種ノ形ヲ成ス。

ソノ他瑪瑙、琥珀等飾リニ用ヒラルル石甚多



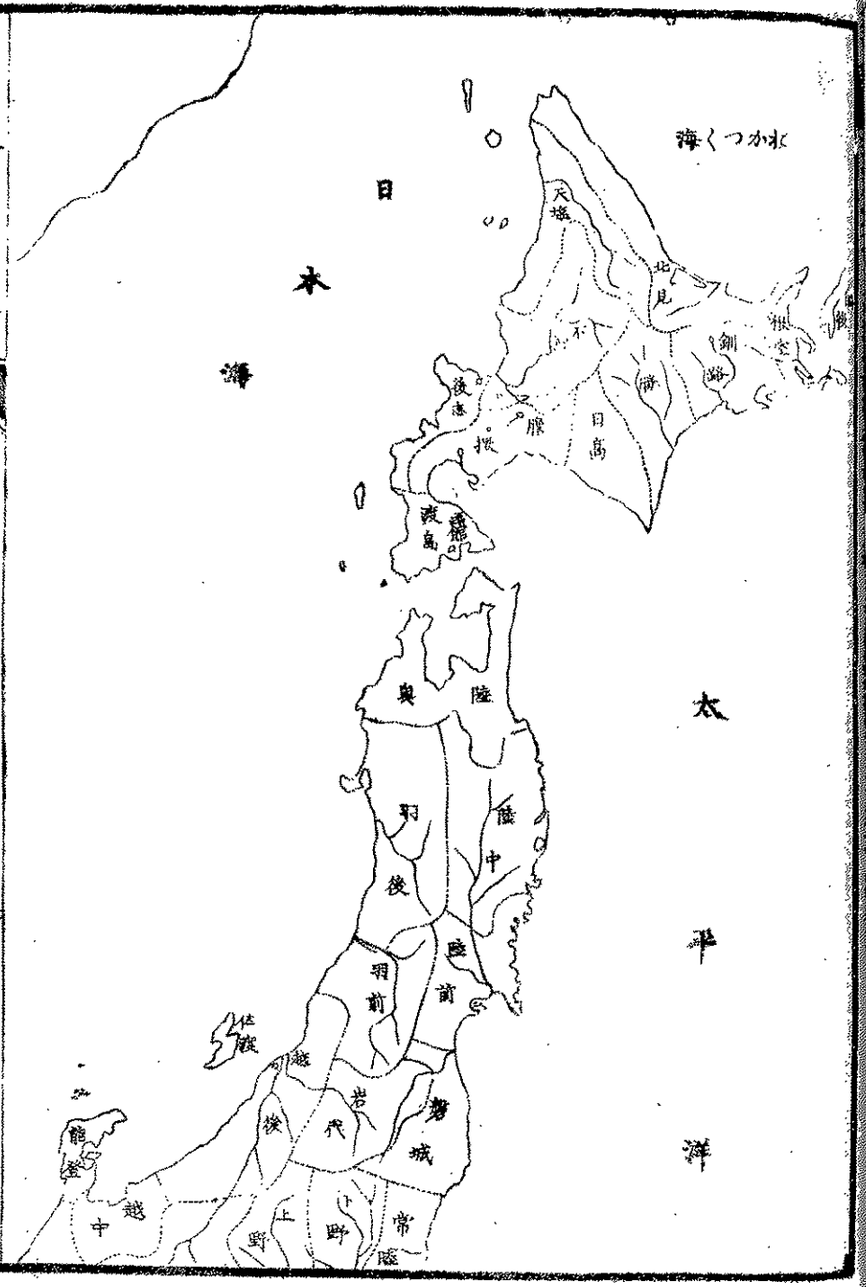
シ。飾リノ石ニシテ最貴キハ金剛石ナリ。金剛石ハ諸物ノ中ニ就キ最堅キ者ニシテ、金類、石類ヨレガ為ニ傷ラレザルモノナシ、ソノ光リ亦美シクシテ他ノ石類ニ異ナリ。而シテソノ産スルコト多カラザルガ故、價ノ貴キコト亦諸物ニ冠タリ。

スベテ石類ハ山中ヨリ取出セル時ニ價甚高カラザルモ、細工ヲスルニ隨ヒテ漸漸ニ價ヲ増ス。唯石類而已ナラズ諸物皆然リトス。譬ヘバ、土ハ殆價ノキ物ナレドモ、コレヲ堀リ、コレヲ煉リ、然シテ家屋ノ壁土トナセバ頗大ナル價ヲ生ズ。五十圓ノ材木ヲ細工スレバ百圓ノ家ヲ造ルコトヲ得ベシ。三升炊キノ鉄釜ハ僅ニ一圓ナルモ、時計ノぜんまいトシタル鉄ハ黄金ノ價ヨリ貴シ、即一匁三圓以上ナリ。力ク物品ノ

形ヲ變ジテ價ヲ增ス職業ヲ工業ト云フ。工業ヲ以テ物ノ價ヲ增スハ實ニ限リナキコトナリ。

旅行ノ四。

國見氏北海道ヨリ歸リ、一夜小兒等ヲ集メテ語リテ曰ハク「汝等地圖ヲ見ヨ。東京ヨリ陸路ヲ經テ例ノどかげノ口ニ達スベシ、コレヨリ海峽ヲ渡ラバ北海道ニ至ルベシ。然レドモ陸路ハ日數ヲ取ルヲ以テ、余ハ横濱ヨリ汽船ニ乘リ、どかげノ右ノ手ヲ廻リテ北ノ方ニ向ヒキ。とかげノ頭ニ耳ノ如キ出端アリ、ココニ金華山ア



リ。スベテカクノ如キ出端ヲ岬又ハ碕ト云フ。耳ト肩ノ間ハ弓形ノ入リ海即灣ナリ。余ハ一晝夜ニシテコノ灣ニ達シ、萩ノ濱ヨリ上陸シテコノ地方ヲ見キ。

萩ノ濱ヨリ數里ニシテ松島アリ、海上一群ノ小島ニシテ、島上ノ松ハ仰グガ如ク、俯スガ如ク、風景言ニ盡シ難シ、コレ日本三景ノ第一ナリ。松島ノ西ニ陸前ノ仙臺アリ、コレ東京ヨリ陸路經ル所ノ都會ニシテ、宮城縣廳ハコヽニ在リ。余ハ少時間コノ邊ノ地形ヲ語ルベシ。

陸前ノ西ノ境ハ即中央ノ山脈ニシテ、どかげノ口ニ達セリ。山脈ノ西一帶ハ昔ノ出羽ノ國ナリ、東一帶ハ昔ノ陸奥ノ國ナリ、故ニ東ハ肩骨ヨリ西ハ喉首ヲ掛ケテ總稱シテ奥羽地方ト云フ。喉ニ當レル地方即昔ノ出羽ノ國ハ今ハ羽前、羽後ニ分レタリ。頭腦ニ當レル地方ハ四方ヲ山ニテ圍マレタル一帶ノ谷ニシテ、コヽ南部地方ナリ。汝等ハ南部ノ絹ノ名ヲ聞シナラン。南部地方ノ水集リ、北上川トナリテ石ノ巻ノ灣ニ注ぐ、即金華山ト松島ノ間ナリ。どかげノ口

ヲ圍メル地方ハ今ノ陸奥ノ國ニシテ、大凡津輕地方ナリ。東京ヨリ津輕マデ陸路大抵二百里ナルベシ。

「余ハ仙臺ヨリ荻ノ濱ニ返リシニ、折リ善ク汽船ガ横濱ヨリ來リテコヽニ荷積ミスルニ逢ヒ、乃チコノ船ニ乘リテ更ニ北ニ向ヒ、一晝夜ニシテ函館ニ至リヌ。函館ハ北海道ノ南端即あかしい ノ尾ニアルコト、及ビ北海道ノ寒氣甚シキコトヲバ汝等皆聞キ知レルナラン。余ガ函館ニ着キシハ六月ノ初メニシテ、東京ノ梅ノ實ハ既ニ黄バミ、櫻子ハ既ニ紫ニナレルヲ、函館ノ公園ハ今正ニ梅、櫻、桃、李一時ニ開クノ時ニシテ、東風袷ニ透リ、肌ニ粟ヲ生ジタリ。函館ハ全國第一ノ好キ港ニシテ、鯡、鮭、昆布等北海道ノ産物ハ皆コノ港ニ集リ、然シテ後或ハ大坂ニ、或ハ新潟ニ、或ハ外國ニ出サルルナリ。

余モシ三、四月ノ頃ニ往キシナラバ鯡獵ノ盛ナルヲ見シナラン、モシ九、十月頃ニ往カバ鮭獵ノ廣大ナルヲ見ルナラン。余ガ往キシ時ハ鯡既ニ乾キテ莚ニ包マレ、魚油ハ汲マレテ樽ニ在

リキ。余ハ唯函館ニテ鯡ノ賣買ヲ約束シ、更ニ海岸漁場ノ樣子ヲ一見セント思ヒキ。乃汽船ニ乘リテ西岸ヲ回リ一晝夜ニシテ小樽ノ港ニ上陸シ、札幌ト云フ都會及ビ岩内ノ石炭山ヲ見キ。余モシ西岸ニ沿ヒテ進マバ遂ニあかいノ左端ナル一ノ岬ニ至ルベシ。コノ崎ト海峽ヲ相隔テタル、細長キ島ハからふとニシテ、ワガ日本ノ内ニアラズ。余モシ函館ヨリ東岸ニ沿ヒテ進マバあかいノ右端ヲ越エテ遂ニ頭ニ至ルベシ。ココニ根室ノ港アリ。根室ノ東北ニ千島列ヲ成シテ北ノ方大陸ニ接ス。からふとノ北モ亦同ジ大陸ニ接セリ。コノ大陸ハさいべりやトイヘリガ日本ノ内ニアラズ。根室ニテハ寒氣殊ニ烈シクシテ、毎年冬ニ至レバ海水ノ氷ルコト一里ニ至ルト云フ。抑鹽水ハ實ニ氷リ難シ、動ケル水モ亦氷リ難シ、然ルニ浪風隙ナキ荒海ノ氷ルハ驚クベキコトナラズヤ。南方國國ノ暑カリシハ余既ニ語リキ今汝等北方ノ寒キヲ知ルナラン。力クノ如ク愈北ナレバ愈寒キ者ナレバさいべりやからふとノ寒サ思ヒ

ヤルベシ。

「余ハ札幌ヨリ陸路ヲ南ニ取リ入リ海ヲ渡リテ函館ニ歸リヌ。」北海道ハ唯海邊開ケタルノミニシテ、内地ハ人跡稀ナル深山幽谷ナリ。内地ニハ唯熊、鹿、狼ノ横行スルノミ、コレヲ除ケバ少數ノ蝦夷人カ獸ヲ射テ食ヒ、木ノ皮ヲ織リテ住居スルノミ。蝦夷人ハ亦あいのト唱ヘラレ、北海道ノ土人ニシテ、大抵漁獵ヲ以テ生活セリ。蝦夷人ハ甚義經ヲ敬セリ。傳ヘ云フ義經京都ヲ出デテ暫奥州ニ隱レシガ、遂ニ蝦夷地ニ渡リ、あいのヲ征服シテ、王位ノ尊キニ居タリトゾ。

「余ハ函館ヨリ汽船ニ乘リ、本島ノ西ヲ回リテ越後ノ新潟ニ着セリ。羽後ニハ一二ノ港アレドモ海底淺クシテ碇泊ニ宜シカラズ、新潟モ亦然リ。故ニ風波烈シキ時節ニハコレ等ノ港ニ往來スル船甚稀ナリ。新潟ハ北國第一ノ繁昌ナル都會ニシテ、コレヨリ南數十里ノ間ハ一面ノ平原ニシテ信濃ヨリ來ル信濃川ソノ間ニ流レ、水ノ便利頗宜シク、隨ヒテ米穀ヲ産スルコト多シ。

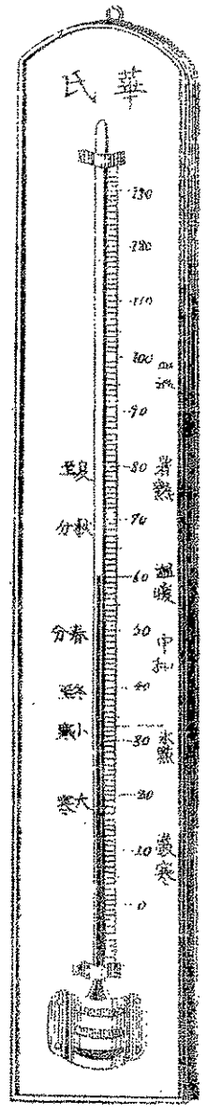
「余ハ新潟ヨリ、東ノ方、中央ノ山脉ニ入リテ會

津ノ陶器等ノ業ヲ見畢リ、コレヨリ東京ニ歸ラン爲南ニ向ヒテ下野ノ國ニ入リヌ。下野ハ亦養蠶ノ盛ナル國ニシテ有名ナル結城足利アリ。下野ノ日光山ニハ德川初代ノ將軍家康公ヲ祭レル宮アリ。ソノ宮殿ノ美麗ナル、山水ノ清潔ナル、諺ニ『日光見ナイナラ結構ト云フナ』ト云フ程ナリ。余ハ日光ヲ見畢リテ、宇都宮ヨリ汽車ニテ歸レリ。新潟ヨリ直ニ東京ニ歸ラントセハ上野ノ山中ヲ經ベシ、然レドモ山中猶雪アルベク、且養蠶ノ外別ニ見ルベキ者ナキヲ以テ今度ハ奥羽街道ヲ過ギシナリ。

寒暖計。

何物ニテモ熱セラルレバ大抵嵩ヲ增ス、即容積ヲ膨脹ス。鉄瓶ニ湯ヲ沸カス時、ソノ水甚多ケレバ、イマダ沸キ上ラザルニ、コボレ出ヅ、コレ水ガ溫マリテ膨脹シタルナリ。

寒暖計ノ中ニアル、光レル物ハみづのねナリ。みづのねハ銀ノ如ク光リ、水ノ如ク流レ動ク者ナレバ水銀トモ云フ。寒暖計ハ硝子ノ空球ニ細キ管ノ付キタル者ニシテ譬ヘバ、小キ德利ノ



口甚細長キ者ナリ。コノ中ニ水銀アリテ、周リ暖ナレバ膨脹シテ管ノ中ニソノ面ヲ上ゲ、冷ナレバコレニ反ス。故ニソノ管ノ側ニ目ヲ刻ミ水銀ノ外ル目印トス。多ク外ルハ多ク温ナルナリ、多ク降ルハ多ク冷ユルナリ。

度ヲ刻ムニハ種種ノ仕方アリ。ソノ一法ハ氷リノ中ニ入レテ水銀ノ降レル點ヲ零度トシ、沸湯ノ中ニ入レテ外レル點ヲ百度トシ、ソノ間ヲ百ニ等分スルナリ。コレ最便利ナル仕方ナレドモ、廣ク世ニ行ハルル者ハコレニ異ナリ。

通例ナル寒暖計ニハ三十二度ニ氷點ト記シ、二百十二度ニハ沸點ト記セリ。汝等ハ氷點、沸點ノ意味ヲ解スルナラン。コノ仕方ナルヲ華氏ノ寒暖計ト云フ。

沸點ト氷點ノ間ニ種種ノ文字ヲ記セリ。即春分、秋分、冬至、夏至等ニシテ各ソノ時節ノ温サ

示セリ。春分、秋分ハ汝等已ニ知レリ。冬至ハ日ノ最短キ時、夏至ハ日ノ最長キ時ニシテ亦汝等ノ知ル所ナリ。ソノ他大寒、小寒ノ字アリ、コレ第一月ノ時候ナリ。汝等ハ「寒」ニ入ルコト、「寒」ノ水、「寒」晒シ等ノ名ヲ知ルナラン。然レドモ國ニヨリテハ、時節同ジクシテ、寒暖異ナルコト多シ。譬ヘバ、北海道ノ大寒ニハ水銀零度ニ降レドモ、九州ニテハ三十度以上ナルガ如シ。サレバ寒暖計ニハ唯氣候ノ大概ヲ示セルノミ。汝等ハ亦血溫ト記シタルヲ見ルベシ。コレ正ニ九十八度ニアリ、即人體ノ溫ナリ。血溫ハ各地ノ人皆同ジク、九州ノ人モ北海道ノ人モ變ルコトナシ。血溫モシ九十八度ヲ越ユレバコレヲ熱ト云フ、即病アルノ驗ナリ。

溫和。

或ル家ニ美麗ナル庭園アリ、折リシモ春ノ半ニテ庭ノ花ハ盛ナルニ、近隣ノ惡シキ兒童等屢垣ノ外ヨリ石ヲ投ゲ入レケリ。下婢、園丁等常ニカレ等ヲ罵リ叱リケレドモ、惡シキ兒童ノ癖トシテ更ニ聞キ入レザリケリ。

一日コノ家ノ娘庭ニ散歩シケルニ垣ノ外ニテ下婢ガ頻リニ争フ聲シケレバ何事ヤラントト庭口ヲ開キテ見レバ、下婢ハ二人ノ兒童ヲ指シ「コレ御覽ゼヨ。コレコソ石投ゲノ童ニテ候ナレ。」ト息ヲ切リテ云フニ、兒童ハ聲ヲ放チテ「否、ワレ等ニアラズワレ等ニアラズ。」ト同音ニヅ叫ビケル。娘ハ笑ヒヲ含ミテ兒童ニ向ヒ「オ、左様カ。君タチハマダ垣ノ内ノ様子ヲ知ルマジ。サラバ入リテ遊ビ給ヘ。」兒童等ハ暫思案シタリシガ、娘ノ溫和ナル顔色ニ稍心ヲ安クシテ、頭ヲ搔キナガラ入リ來レリ。門ニ入レバ庭面ハ緑ノ毛氈ノ如キニ櫻ノ花ガ處處ニ落チタルハ恰織リ紋ノ如シ。梅ノ實ガマダ豆ノ如クニシテ青葉ノ中ニ點ゼルヲ見テ二人ハ更ニ餘念ナシ。

娘ハ咲キミダレタル山吹キノ枝ヲ折リ二人ニ與ヘテ云ヒケルハ「善キ子供タチヨ。遠カラズ牡丹ノ花モ咲クベシ。」ソノ時又來テ遊ビ給ハバ大ナル牡丹ノ花ト愛ラシキ青梅ヲ進ズベシ。然レドモソノ時惡シキ子供ノ石飛ビ來リテ君等ヲ害センコトヲ恐ルルナリ。」二人ハコ

レヲ聞キ、答ヘントシテ止ムコト屢ナリシガ遂ニ決心ノ氣色ヲ顯ハシテ曰ハク「許シ給ヘ、石ヲ投ゲシハワレ等ナリ。今ヨリ以後決シテカカル事ヲセザルベシ。」

粗暴ハ溫和ヲ害スルヲ得ズ、偽リハ親切ヲ欺キ難シ。惡人ニ向ヒテ空シク爭フコト勿レ。

試ミニ石ヲ打テ、打ツコト強ケレバ、汝ガ手ノ痛ミモ亦強シ。

忠義ナル犬。

人ニシテ父母ヲ愛敬スルヲ知ラズ、朋友ニ對シテ誠ヲ盡サズ、或ハ恩ニ背キ、或ハ人ヲ欺クモノアリ、コレ人ニシテ鳥獸ニ近キモノナリ。馬、牛、犬、猿ノ如キ獸ノ中ニハ、主人ヲ愛シ、恩義ヲ記憶シ、親子ノ愛情厚キコト或ハ人間ニ勝レルモノアリ。

コレハ西洋ノ話ナルガ、或ル商人、貸シ金ヲ取ラン爲、一日馬ニ乘リ愛犬ヲ連レテ田舍ニ趣キ、既ニシテ受ケ取リタル金貨ヲ革嚢ニ納メ、モト來シ道ニ歸リケルガ、折リシモ夏ノ半ニテ日光燒クガ如クナリケレバ、トアル路傍ノ森ニ

馬ヲ繫ギテ暫時休息シケリ。力カル炎天ノ道中ニハ青葉ノ風ヲ思ヒヤルダニ快キヲ、マシテ道ノ邊ニ清水流ルル柳影、シバシトテコソ立チトマリケレ。遂ニハ歸ルヲ忘ルル習ヒナレバ、商人ハ萬事ヲ忘レテ時刻ヲ過シケルガ、日ノ西山ニ傾クニ至リ、驚キテ急ギ馬ニ打チ乘リケリ。

コノ時携ヘラレタル犬ハ常ナラズ吠エ掛カリテ恰モ路ヲ妨グルガ如クナリケレバ、主人ハ慌ミナガラ心急ギテ、叱叱ノ聲ト共ニ馬ヲ進メケルニ、犬ハ益猛リテ馬ノ足ニ噛ミ付カントシケリ。主人コレヲ見テ、扨ハコノ犬狂病ヲ發シテ余ヲ害セントスルナリト思ヒクレバ、己レ畜生ト云ヒ乍ラ腰ナル「びすとる」ヲ抜キ出シ、一聲ノ下ニ愛犬ヲ打チ倒シヌ。犬ハ急所ヲ貫カレテ森ノ方ニ這ヒ行クヲ見送リモ果サズ、商人ハ頻ニ馬ニ鞭チタリ。

行クコト數十町ニシテ商人ハ金嚢ヲ森ノ中ニ忘レシヲ思ヒ出シ、最早人ニ取ラレタラン樣ニ且驚キ、且落膽シ、馬ノ鼻ヲ廻ラスサヘモドカシク、殘酷ニ鞭チテ元ノ森マデ歸リ來レリ。無

慙ヤナ、忠義ナル犬ハ、滿身血ニ染ミナガラ革嚢ノ上ニ卧シテ不仁ナル主人ノ金貨ヲ護リ、今ソノ來ルヲ見テ喜ビニ堪ヘズ一聲ノ啼キヲ最後ニテ忽ニ目ヲ塞ギヌ。主人ハ落ルガ如ク馬ヨリ下リ、犬ノ前足ヲ握リ「アア、吾レコソ吾レコソ畜生ナリシモノヲ」トテ後悔ノ涙遣ル方ナカリケリ。後ニコノ犬ノ爲ニ碑ヲ建テ長クソノ忠義ヲ記シ殘シケリトナン。

春。

霜枯レシ
褪野ノ草ヲ
雪ノ綿ギヌ
霞ノ衣、
サヅナ嬉シキ
「紫山、シゲ山」
「コノモ、カノモ」ヲ
影モ亂サヌ
靜ケキ聲ヲ
糸ニ引カセ天
鶯雀

脱ギ替ヘテ、
解きステテ、
花ノ帶、
春ノ山。
ウチ連レテ
みづ鏡、
春風ノ
青柳ノ
ヨブコ鳥
諸聲ニ

歌フヲ聞ケバ、
ワレモ歌ハン。
再訪ハヌ
逢ヒ見ル今日ハ
ワレモ歌ハン。
調べ合セヨ
糸、

イザサラバ
ヒトトセニ
友人ト
諸聲ニ
イザサラバ
青柳ノ

終

明治二十一年八月六日版權免許
同二十年十一月十一日校正届　定價金十錢

著者　新潟縣士族　新保磐次　神田區末廣町十番地
出板人　東京府士族　原亮三郎　日本橋區本町三丁目十七番地
大賣捌所　大阪北久寶寺町四丁目　金港堂原亮三郎支店
賣捌所　岐阜　金港堂支店
各府縣下代理大賣捌所

明治20
セ 6